

平成 28 年度

邦楽地域活性化事業
報告書



一般財団法人 地域創造
Japan Foundation for
Regional Art-Activities

■はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成や、公立文化施設の活性化を図るための各種事業を実施しています。

これらの事業の一環として地域創造では、平成21年度のモデル事業実施を経て、平成22年度より、邦楽地域活性化事業に取り組んでいます。

邦楽地域活性化事業は、地域創造がこれまで取り組んできた公共ホールを拠点とした地域交流プログラムに関するノウハウと、日本の伝統文化への取り組みを踏まえ、地域創造と都道府県や政令指定都市の中核ホールが共同で、研修会や域内市町村等でのアウトリーチ、コンサートなどの事業を実施し、地域に邦楽の特色を活かしたアウトリーチの手法および事業展開のノウハウを蓄積することを目指すものです。

この報告書は、公益財団法人しまね文化振興財団及び公益財団法人浜田市教育文化振興事業団、公益財団法人江津市教育文化財団との共催により実施された平成28年度邦楽地域活性化事業の内容を取りまとめたものです。

報告書の中では、各チームのアウトリーチ進行シートのほか、主催団体および市町村ホールの担当者による成果や反省点・課題等についての報告をケーススタディとして掲載しました。また、コーディネーターによるレポートと邦楽事業に関するコラム、アウトリーチやコンサートに参加された方々のアンケート結果を掲載しました。

全国の地方公共団体ならびに公共ホールのみなさまにおかれましては、ぜひ邦楽に関する地域交流プログラムも含めた自主事業にお取り組みいただき、本報告書をご活用いただければ幸いです。

一般財団法人地域創造

※なお、平成27年度は共催事業を行わなかったため報告書を発行していません。ご了承ください。

目次

I. 邦楽地域活性化事業概要	1
1. 事業の仕組み	2
2. 事業の流れ	3
3. これまでの経緯	4
II. 平成28年度 事業記録	5
1. 事業体制	6
2. 演奏家プロフィール	7
3. 全体スケジュール	8
4. 全体研修会	9
5. 現地見	10
6. 手法開発研修会	11
7. 地域交流プログラム	13
8. 総括公演プログラム	16
II-2. 平成28年度 アウトリーチ進行シート 児玉 真	17
III. 平成28年度 事業報告	25
1. 主催団体報告	
ディレクター	山崎 晋志 (公益財団法人しまね文化振興財団) …… 26
担当者	田中 純恵 (公益財団法人しまね文化振興財団) …… 27
2. アドバイザー総評	山崎 篤典 …… 28
3. 地域交流プログラム報告	
①浜田市	
コーディネーター	米澤 浩 …… 30
石央文化ホール	川神 真由美 …… 31
②江津市	
コーディネーター	楠瀬 寿賀子 …… 32
江津市総合市民センター	松島 公典 …… 33
③益田市	
コーディネーター	谷垣内 和子 …… 34
いわみ芸術劇場	田中 純恵 …… 35
4. 参加者の声 (アンケート結果)	
①地域交流プログラム	…… 36
②総括公演プログラム	…… 39
IV. 平成28年度 事業資料	41
平成28年度邦楽地域活性化事業 総括公演チラシ	…… 42
平成28年度邦楽地域活性化事業 総括公演パンフレット	…… 44
平成28年度邦楽地域活性化事業 実施要綱	…… 48

コラム

●邦楽・邦楽器の音がもつ力

[楠瀬 寿賀子] …… 24

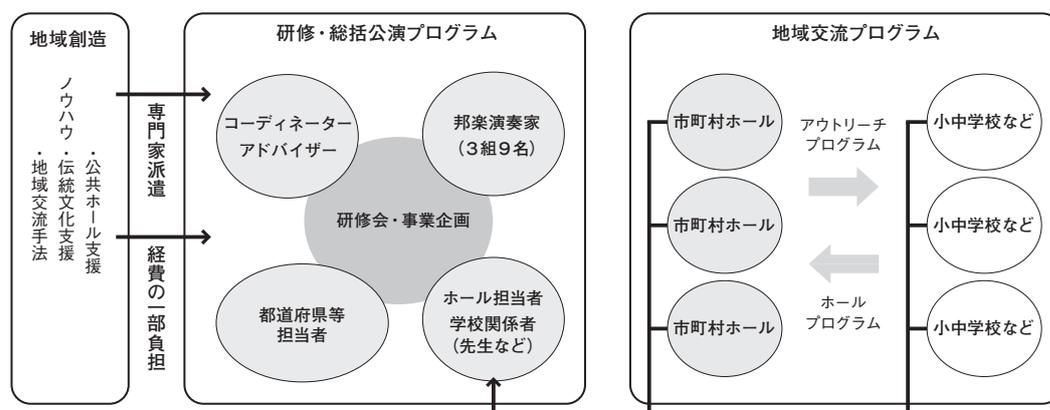
I . 邦楽地域活性化事業概要

1 事業の仕組み

都道府県・政令指定都市等と地域創造の共催で、公共ホールを中心に若手邦楽演奏家による各種プログラムを実施します。

実施都道府県内で選ばれた市町村ホールや、政令指定都市内の場合は管内の複数のホールが、それぞれ地元の学校向けに、アウトリーチと呼ばれる1クラス単位の教室での鑑賞型事業や、ホールでのワークショップなどの地域交流プログラムを行います。都道府県・政令指定都市等は、事業の実施に向けて様々な研修会などを開催しながら事業を統括し、最後に全演奏家が出演するコンサートを開催します。

地域創造からは、演奏家に加え地域の芸術活動や企画制作に詳しいコーディネーター・アドバイザーなどの専門家を派遣し、ノウハウの提供や事業全般のサポートを行います。



■事業の目指すもの・期待される効果

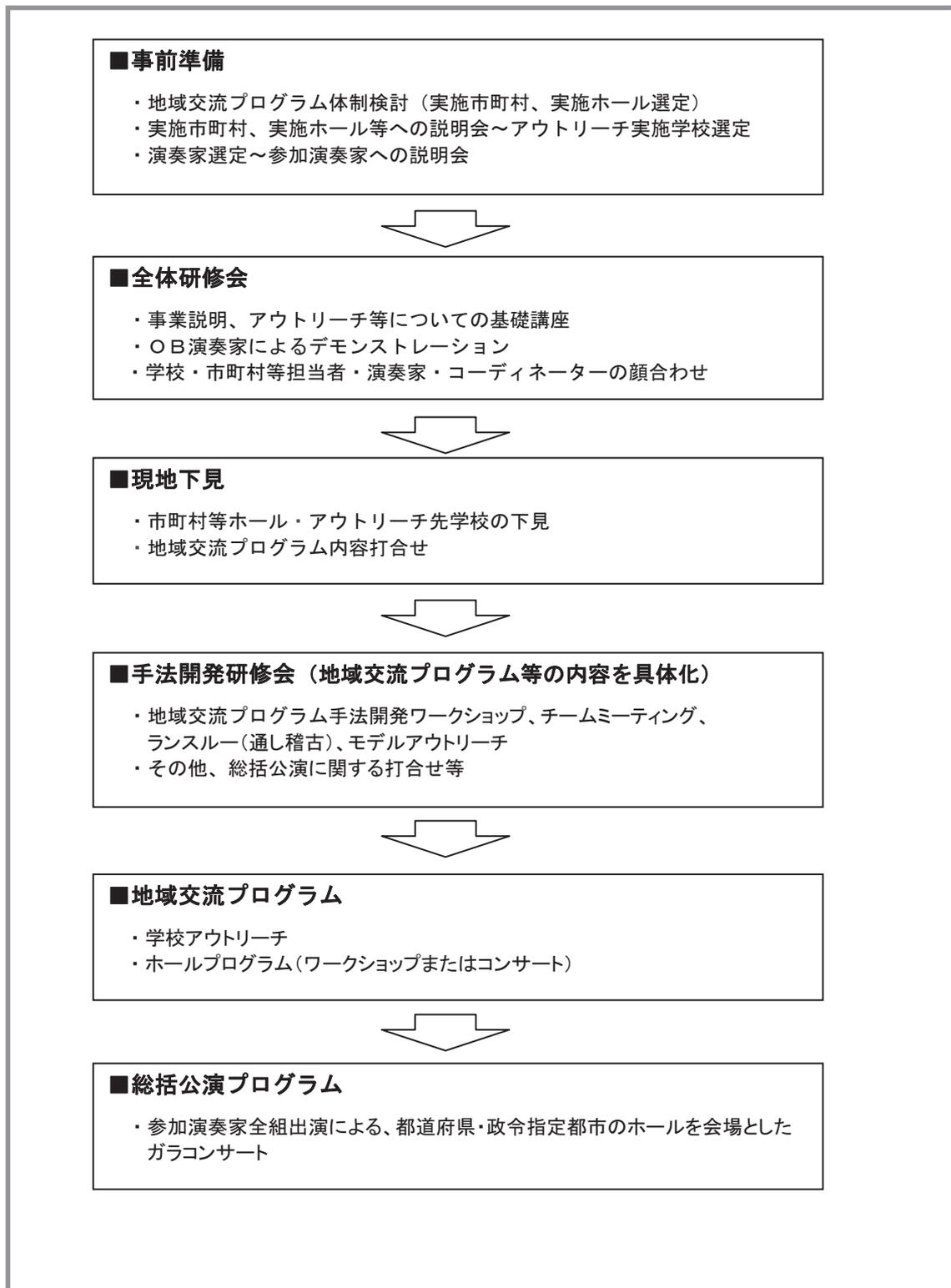
- 公共ホールが邦楽事業に関するノウハウを獲得することで、学校等地域からの邦楽に関するニーズに応えられるようになることを目指します。また、都道府県等の公共ホールを核とした市町村立ホールのネットワークづくりや人材育成、邦楽を通じた学校と公共ホールの連携促進につなげます。
- 地域の子どもたちに日本の伝統楽器や邦楽のすばらしさを伝え、同時に、邦楽の演奏家や指導者、教育関係者、ホール職員にアウトリーチをはじめとした地域交流プログラムの手法を獲得してもらうことにより、地域での邦楽への取り組みの幅を広げ、邦楽の継承発展を目指します。

■経費負担

- (1) 地域創造が直接負担する経費
演奏家の事業参加に係る報酬（出演料、謝金等を含む）、派遣に係る交通費（現地移動費を除く）、宿泊費、日当、派遣に係る傷害保険料。その他演奏家に対する現地までの楽器運搬費の補助。
- (2) 実施団体からの請求にもとづき、地域創造が負担する経費
 - ① 都道府県・政令指定都市等が支出した研修会、総括公演等実施に係る経費のうち対象とするものにつき、合計450,000円まで
 - ② 市町村等が支出した地域交流プログラム実施に係る経費のうち対象とするものにつき、1団体あたり50,000円まで
- (3) 地方公共団体等が負担する経費
上記以外の経費。具体的には、演奏家の現地移動費及び現地での楽器の輸送（宿泊先から学校・ホール間など）に係る経費等は各実施団体の負担となっています。

※P.48「平成28年度邦楽地域活性化事業 実施要綱」参照

2 事業の流れ



3 これまでの経緯

実施年度	実施地域	主催団体	チーフ コーディネーター	アドバイザー	地域交流 プログラム実施 団体	演奏家	コーディネーター
平成21年度 (モデル事業)	島根県	島根県、(財)島根県文化振興財団	児玉真	-	益田市	山野安珠美(箏曲)、市川慎(箏曲)、小池摩美(箏曲)	米澤浩
					雲南市	奥山益勢(箏曲)、佐久間景子(箏曲)、樋口千清代(箏曲)	谷垣内和子
					津和野町	片岡リサ(箏曲)、岡村慎太郎(箏曲)、清野樹盟(尺八)	壺岐達朗
平成22年度	熊本県	熊本県、(財)熊本県立劇場	児玉真	杵屋五司郎	荒尾市	佐藤亜美(箏曲・尺八)、木村麻耶(箏曲)、町田光(箏曲)	米澤浩
					人吉市	菊央雄司(箏曲)、伊藤志野(箏曲)、小林静純(尺八)	山崎篤典
平成23年度	埼玉県	埼玉県、(公財)埼玉県芸術文化振興財団	児玉真	米澤浩 (兼務)	入間市	吉川由里子(箏曲)、佐々井麻矢(箏曲)、平野寿里(箏曲)	山崎篤典
					富士見市	藤井佐和(箏曲)、武田旺山(尺八)、中小路奈都子(箏曲)	米澤浩
					川口市	鈴木真為(箏曲)、千葉暢(箏曲)、樋口千清代(箏曲)	谷垣内和子
平成24年度	千葉市	アートプレックスちば事業体	児玉真	谷垣内和子	中央区	中香里(三味線)、五十川真子(三味線)、河野紫(三味線)	山崎篤典
					若葉区	伊藤麻衣子(箏曲)、木場大輔(胡弓)、麻植理恵子(箏曲)	米澤浩
					美浜区	朝香麻美子(箏曲)、佐々木千香能(箏曲)、小間夕起子(箏曲)	吉田真由美
平成25年度	徳島県	徳島県、(公財)徳島県文化振興財団	児玉真	山崎篤典	海陽町	横山佳世子(箏曲)、鎌田美穂子(箏曲)、平田紀子(箏曲)	米澤浩
					小松島市	岡本慎太郎(箏曲)、山形光(箏曲)、黒田静鏡(尺八)	谷垣内和子
					吉野川市	日吉章吾(箏曲)、光原大樹(箏曲)、田嶋謙一(尺八)	吉田真由美
平成26年度	富山県	(公財)富山県文化振興財団、(公財)高岡市民文化振興事業団、(公財)射水市文化振興財団、(公財)砺波市花と緑と文化の財団	児玉真	伊藤由貴子	砺波市	黒川真里(箏曲)、平田紀子(箏曲)、石田真奈美(箏曲)	本田恵介
					高岡市	花岡操聖(箏曲)、荒井美帆(箏曲)、内藤美和(箏曲)	谷垣内和子
					射水市	吉澤延隆(箏曲)、マクイーン時田深山(箏曲)、中島裕康(箏曲)	米澤浩
平成27年度	実施せず						
平成28年度	島根県	(公財)しまね文化振興財団、(公財)浜田市教育文化振興事業団、(公財)江津市教育文化財団	児玉真	山崎篤典	浜田市	石田真奈美(箏曲)、藤高理恵子(琵琶)、田野村聡(尺八)	米澤浩
					江津市	日原暢子(箏曲)、川村葵山(尺八)、渡部祐子(箏曲)	楠瀬寿賀子
					益田市	樋口千清代(箏曲)、三橋乙勢(箏曲)、森田博代(箏曲)	谷垣内和子

Ⅱ. 平成28年度 事業記録

1 事業体制

- ◎主催団体：公益財団法人しまね文化振興財団（いわみ芸術劇場）、公益財団法人浜田市教育文化振興事業団（石央文化ホール）、公益財団法人江津市教育文化財団（江津市総合市民センター）
- ◎共催団体：一般財団法人地域創造
- ◎実施日程：平成28年8月25日～平成28年12月11日
- ◎ディレクター [主催団体の責任者]
山崎 晋志（公益財団法人しまね文化振興財団（いわみ芸術劇場）文化事業課長）
- ◎チーフコーディネーター [地域創造の派遣する専門家]
児玉 真（一般財団法人地域創造プロデューサー）
- ◎コーディネーター [地域創造の派遣する専門家]
谷垣内 和子（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演芸術振興部 企画室長）…益田市担当
米澤 浩（邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団 副代表）…浜田市担当
楠瀬 寿賀子（公益財団法人せたがや文化財団 音楽事業部）…江津市担当
- ◎アドバイザー [地域創造の派遣する専門家]
山崎 篤典（音楽・舞台プロデューサー）
- ◎演奏家
石田 真奈美（箏曲）、藤高 理恵子（琵琶）、田野村 聡（尺八）…浜田市担当
日原 暢子（箏曲）、川村 葵山（尺八）、渡部 祐子（箏曲）…江津市担当
樋口 千清代（箏曲）、三橋 乙勢（箏曲）、森田 博代（箏曲）…益田市担当

■プログラム一覧

◎研修プログラム

実施内容	実施日	会場
全体研修会	8月25日（木）	いわみ芸術劇場 (32名)
手法開発研修会	9月26日（月）～9月29日（木）	いわみ芸術劇場 益田市立吉田南小学校 (101名)

◎地域交流プログラム

実施団体	担当演奏家等	内容	実施日	学校、ホール名	参加者数
浜田市	石田 真奈美 藤高 理恵子 田野村 聡 ＜コーディネーター＞ 米澤 浩	アウトリーチ①	10月13日（木）	浜田市立第一中学校	29名
		アウトリーチ②	10月13日（木）	浜田市立第一中学校	28名
		アウトリーチ③	10月14日（金）	浜田市立第一中学校	42名
		アウトリーチ④	10月14日（金）	浜田市立第一中学校	43名
		ワークショップ	10月15日（土）	石央文化ホール	30名
江津市	日原 暢子 川村 葵山 渡部 祐子 ＜コーディネーター＞ 楠瀬 寿賀子	アウトリーチ①	10月20日（木）	江津市立桜江小学校	28名
		アウトリーチ②	10月20日（木）	江津市立桜江中学校	21名
		アウトリーチ③	10月21日（金）	江津市立津宮小学校	31名
		アウトリーチ④	10月21日（金）	江津市立津宮小学校	31名
		ワークショップ	10月22日（土）	江津市総合市民センター	25名
益田市	樋口 千清代 三橋 乙勢 森田 博代 ＜コーディネーター＞ 谷垣内 和子	アウトリーチ①	10月27日（木）	益田市立吉田小学校	27名
		アウトリーチ②	10月27日（木）	益田市立吉田小学校	27名
		アウトリーチ③	10月27日（木）	益田市立吉田小学校	28名
		アウトリーチ④	10月28日（金）	益田市立鎌手小学校	42名
		ワークショップ	10月29日（土）	いわみ芸術劇場	26名

・アウトリーチプログラム参加者数 478名（モデルアウトリーチ101名、地域交流プログラムアウトリーチ377名）

・ホールプログラム参加者数 81名

◎総括公演プログラム

実施内容	実施日	会場	入場者数
ガラコンサート	12月11日（日）	いわみ芸術劇場	320名

2 演奏家プロフィール

◎:代表者

[浜田市担当]

◎石田 真奈美 生田流箏曲

千葉県出身。幼少より箏の手ほどきを祖母に受け、のちに深海さとみ氏に師事。2006年東京芸術大学卒業。卒業時にアカンサス音楽賞を受賞。皇居桃華楽堂にて御前演奏をつとめる。2010年第16回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞。2013年第20回賢順記念全国箏曲コンクール銅賞。千葉県文化振興財団主催「第28回 若い芽のaコンサート」にて、ソリストとしてニューフィルハーモニーオーケストラ千葉と共演。NHKテレビ・ラジオ出演。深海さとみCD「二曲一雙」、煌★バンドCD「和楽器 DE MUSIC FOUNTAIN」、スマホアプリ iOS版「戦国X(クロス)」レコーディング参加。(公社)日本三曲協会・宮城会・森の会・深海邦楽会各会員、和楽器オーケストラあいおい・和楽団「煌」・箏七星各メンバー。

◎藤高 理恵子 筑前琵琶

神奈川県逗子市出身。筑前琵琶を田原順子氏に師事。古典弾き語りや現代邦楽の演奏活動を行うと共に、現代語によるオリジナル作品の創作にも力を注いでいる。小さな会場でのソロライブから学校公演、他楽器とのアンサンブル演奏など幅広く活動。また芝居や無声映画の伴奏、書道・茶道・生け花など他ジャンルとのコラボレーションも行う。第5回東京邦楽コンクールにて日本現代音楽協会賞受賞。第15回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクールにて優秀賞受賞。日本音楽集団の団員として国内各地および海外での公演に参加。国立劇場の現代邦楽公演やNHKの邦楽番組に出演。馴染みが薄く堅苦しいイメージを持たれがちな琵琶を、気軽に楽しく聴いてもらいたいと思いついて活動している。

◎田野村 聡 琴古流尺八

岡山県出身。鳥根大学総合理工学部卒業。少年期よりギター、電子音楽制作、DJ等の多様な音楽遍歴を経た後、祖父の形見である楽器を手に18歳より尺八を始める。琴古流尺八を寛秀月氏、現代邦楽を田辺刈山氏、田辺頌山氏に師事。上京以後、菅原久仁義氏に師事。NHK邦楽技能者育成会第51期修了。日本音楽集団団員。第17回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞(笛・尺八音楽の部1位)。世界各地での演奏活動の一方、著名アーティストとの共演やTV出演、CM/ゲーム音楽のレコーディング参加多数。独学による作曲活動も展開し、和楽器によるゲーム音楽ユニット「ファミン」では編曲を担当。幅広い音楽的背景・感性を武器に尺八の表現における新たな可能性を追求している。

[江津市担当]

◎日原 暢子 生田流箏曲

岐阜県出身。幼少より三浦維甫に手ほどきを受けた後、岩田柔柯に師事。東京芸術大学邦楽科卒業に際し、アカンサス音楽賞及び同声会賞受賞。宮内庁皇居桃華楽堂にて御前演奏。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修専攻科及び研究生修了。東京芸術大学邦楽科教育研究助手を経て、文化庁新進芸術家育成事業研修生として研鑽を積む。野坂操壽、深海さとみ、各氏に師事。第18回賢順記念全国箏曲コンクールにて銀賞及び福岡県知事賞。愛知芸術文化協会ANET新人賞。岐阜市芸術文化奨励賞。各地でのリサイタルやソロコンサートの他、スーパー歌舞伎やNHK「にほんごであそぼ」等の録音参加。NHKラジオ「邦楽のひととき」出演。CM出演。現在、芙蓉会、同声会、森の会、(公社)日本三曲協会、4 plus、アンサンブル室町に所属。古典の際は藤花維柯として演奏活動を行う。

◎川村 葵山 都山流尺八

東京都出身。東洋大学卒。NHK邦楽技能者育成会第51期修了。尺八を父、川村泰山に師事。都山流尺八楽会准師範試験、師範試験共に首席合格。国際交流基金派遣等によりロシア、アメリカで演奏。NHKオーディション合格、NHKラジオ「邦楽のひととき」出演。第15回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクールにて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞受賞。NHK教育テレビ「芸能花舞台」出演。第36回、第38回都山流全国本曲コンクールにて共に金賞受賞。現在、都山流師範、講師補。(公財)都山流尺八楽会、泰山会、和楽器のオーケストラ「むつのを」、尺八四重奏団「破竹」等に所属。

◎渡部 祐子 生田流箏曲

熊本県出身。6歳より坂田和歌子氏に箏・三絃の手ほどきを受け、後に山川玉枝、芦垣美穂の各氏に師事。東京芸術大学卒業。東海大学大学院修了。第14回賢順記念全国箏曲コンクールにて賢順賞受賞。伝統楽器の可能性や魅力を伝えるため、ライブや訪問演奏、学校公演を行い、また和楽器オーケストラメンバーとして日本各地で演奏会に出演。2013年度より宮崎県高等学校総合文化祭にて審査員を務める。中学、高校、大学での指導にも力を入れている。宮崎大学教育文化学部非常勤講師。NHK教育テレビ「芸能花舞台」、NHK WORLD「Blends」、日本テレビ「ネブ&イモトの世界番付」などにも出演。

[益田市担当]

◎樋口 千清代 山田流箏曲

東京都生まれ。高柳照子に山田流箏曲の手ほどきを受け、1998年「千清代」の名を許される。2003年 東京芸術大学音楽学部邦楽科を卒業。安宅賞・アカンサス音楽賞並びに同声会新人賞を受賞し新人演奏会に出演。2005年 同大学大学院音楽研究科修士課程修了。国際交流基金の派遣によりウズベキスタンで公演。2009年 同大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。山田流箏曲専攻では初の博士号を取得。在学中は萩岡松韻、増渕一朗、山勢松韻らに師事。2010年度文化庁新進芸術家育成事業研修員として山田流箏曲を萩岡松韻、河東節三味線を山彦良波の各氏に師事し研修。国内外で演奏活動をする傍ら、小中学校での公演にも力を注いでいる。(公社)日本三曲協会・山田流箏曲協会・箏曲新潮会各会員。邦楽ぐるーぷ翔の会・和楽器オーケストラあいおい・千代見会所属。読売カルチャー大宮校、豊島区後援子供邦楽合奏団「音輪会」講師。

◎三橋 乙勢 山田流箏曲

千葉県出身。幼少より祖母 本多波津井より手ほどきを受ける。人間国宝 山勢松韻に師事。東京芸術大学 音楽学部 邦楽科を卒業。在学中は増渕一朗、岸辺美千賀らに師事。2008年・2009年新春歌舞伎公演に出演。俳優座の女優田野 聖子ひとり芝居「花いちもんめ」、朝丘雪路舞台「花や蝶や」、代官山コレクションファッションショー音楽出演。Shing02+CRADLE ORCHESTRA CDレコーディング参加。その他、演奏活動、学校教育鑑賞会など多数出演中。(公社)日本三曲協会・山田流箏曲協会・箏曲新潮会 副主宰。

◎森田 博代 山田流箏曲

東京都出身。9歳より箏曲を始め、15歳より大間隆之に師事。東京芸術大学大学院修了。在学中は、萩岡松韻、岸辺美千賀、井口法能、宮下秀列、鈴木厚一の各氏に師事。2009年、皇居桃華楽堂にて御前演奏。大学院修了後は、都立高校、島村楽器ミュージックサロン、東京・文化発信プロジェクト「キッズ伝統芸能体験」などの講師を務め、文化庁主催「文化芸術による子供の育成事業」の巡回公演事業に参加(山梨公演、福島公演、長崎公演)するなど、幅広く演奏活動をしている。(公社)日本三曲協会、山田流箏曲協会、箏曲新潮会、箏楽会、和楽器オーケストラあいおいに所属。

3 平成28年度邦楽地域活性化事業全体スケジュール

項目	平成28年度(鳥根県) 実施スケジュール		出席者
<市町村ホール担当者への事業説明会> 場所：いわみ芸術劇場 内容： ・事業の概要説明、事業説明 ・実施担当者等の実務について ・質疑応答	平成28年2月8日		県ディレクター、県担当者、3市ホール担当者、 チーフコーディネーター、地域創造担当者
<演奏家面談会>	平成28年3月9日		候補演奏家、県ディレクター、県担当者、 チーフコーディネーター、地域創造担当者
<コーディネーター会議> 内容： ・本年度の事業概要について (演奏家のチーム編成および担当地域、 担当コーディネーターなど) ・各プログラムの内容について ・今後のスケジュール	平成28年6月7日		県ディレクター、県担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、地域創造担当者
<演奏家への事業説明会> 場所：地域創造 内容： ・自己紹介 ・事業概要説明 ・邦楽アウトリーチに係るレクチャー ・各プログラムの内容について ・事務説明(諸手続等について) ・チーム打合せ	平成28年6月24日		演奏家、 県ディレクター、県担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、地域創造担当者
<全体研修会&市町村現地見下見> 場所：いわみ芸術劇場 内容(全体研修会)： ・事業の概要について ・チーフコーディネーターによるレクチャー ・OB演奏家によるORデモンストレーション ・コーディネーター座談会 内容(現地見下見)： ・学校見下見&打合せ ・3市ホール見下見&打合せ	平成28年8月25日～26日 →8月25日：全体研修会 →8月26日：現地見下見		演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、 県ディレクター、県担当者、 3市ホール担当者、学校関係者、 県内邦楽関係者ほか外部参加者(研修会のみ)、 地域創造担当者
<チーム会議> 場所：チームごとに決定 内容：地域交流プログラム案の作成	石田チーム	平成28年7月7日・9月12日	演奏家、コーディネーター、 地域創造担当者
	日原チーム	平成28年9月1日・10月18日	
	樋口チーム	平成28年8月21日	
<手法開発研修会> 場所：いわみ芸術劇場 内容： ・プログラム手法開発ワークショップ ・チームミーティング ・ランスルー ・総括公演打合せ ・モデルアウトリーチ	平成28年9月26日～9月29日 →9月27日：中間発表 →9月28日：ランスルー →9月29日：モデルアウトリーチ		演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、 県ディレクター、県ホール担当者、 3市ホール担当者、学校関係者、 地域創造担当者
<地域交流プログラム> 場所：3市学校&ホール 内容： ・学校アウトリーチ(各市4クラス) ・ホールワークショップ	石田チーム (浜田市)	平成28年10月13日：OR 平成28年10月14日：OR 平成28年10月15日：WS	演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 県ディレクター、 県担当者、 3市ホール担当者、学校関係者、 地域創造担当者
	日原チーム (江津市)	平成28年10月20日：OR 平成28年10月21日：OR 平成28年10月22日：WS	
	樋口チーム (益田市)	平成28年10月27日：OR 平成28年10月28日：OR 平成28年10月29日：WS	
<総括公演プログラム> 場所：いわみ芸術劇場 内容：参加演奏家全組によるガラコンサート	平成28年12月9日～12月11日 →12月9日：合同演奏曲練習 →12月10日：リハーサル →12月11日：ゲネプロ、本番		演奏家、 県ディレクター、県担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、地域創造担当者
<総括会議> 内容：事業の振り返り、次年度への提言	平成29年1月30日		県ディレクター、県担当者、チーフコーディネーター、 コーディネーター、アドバイザー、地域創造担当者

4 全体研修会

全体研修会は、ホール担当者、行政担当者、アウトリーチ先の学校関係者と、コーディネーター、演奏家等、事業の関係者が全員集まって行うキックオフミーティングです。

今年度は、事業の関係者のみならず、邦楽分野のアウトリーチ・ワークショップ事業などに関心のある公共ホールや文化行政担当者、地域の邦楽関係者にも参加を募り、手法開発研修会や総括公演プログラムの会場となる島根県芸術文化センター「グラントワ」（いわみ芸術劇場）で行われました。

研修会の内容は、本事業の趣旨や流れ、準備作業内容の確認のほか、チーフコーディネーターの児玉真さんによるレクチャー、前年度参加アーティストによるアウトリーチデモンストレーション、本事業に参加するコーディネーターの座談会で構成されました。

邦楽のアウトリーチやワークショップの可能性についての理論的な講義の後は、参加者を生徒に見立てたアウトリーチデモンストレーションで、アウトリーチの具体的なイメージをつかみました。また、コーディネーター・アドバイザーによる各プログラムの意義や取り組み方、その効果などを語る座談会を開催し、参加者はアウトリーチや本事業への理解をより深めました。

- 1 日 時 平成28年 8月25日（木） 13：30～17：00
- 2 会 場 島根県芸術文化センター「グラントワ」 講義室・スタジオ1
- 3 出席者 しまね文化振興財団8人、市町村ホール担当者2人、学校関係者5人、演奏家9人、チーフコーディネーター1人、コーディネーター3人、アドバイザー1人、地域創造2人、県外ホール担当者1人 計32人

4 スケジュール

主催者挨拶 公益財団法人しまね文化振興財団(いわみ芸術劇場) 館長 末成 弘明

1. 事業概要説明 地域創造 副参事 磯部 聡
2. チーフコーディネーターレクチャー 地域創造プロデューサー 児玉 真
3. アウトリーチデモンストレーション
平成26年度参加演奏家：吉澤延隆、マクイーン時田深山、中島裕康（箏曲）
4. 質疑応答など
5. コーディネーター座談会



アウトリーチデモンストレーション



コーディネーター座談会

5 現地下見

現地下見は、ホール担当者と演奏家、コーディネーターが、手法開発研修会での地域交流プログラムの内容づくりに向けて、すべてのアウトリーチ実施校と市町村等ホールの視察と現地打合せを行うものです。

学校下見では、演奏家とコーディネーターが教室の広さや使える設備を最終確認するとともに、学校関係者との現地打合せを行います。また、ホール下見では、コンサート会場については舞台関係や進行の確認を、ワークショップ会場については広さにあわせて体験用の楽器の数や参加人数の上限などを決め、手法開発研修会でのプログラムづくりに反映させます。

今年度の現地下見は、全体研修会の翌日にスケジュールを組み、できるだけ多くの演奏家が参加できるようにすることで、担当する市での地域交流プログラムのイメージ共有に努めました。

◎浜田市

- ・ 8月26日…浜田第一中学校
石央文化ホール

◎江津市

- ・ 8月26日…津宮小学校
桜江小学校
桜江中学校
江津市総合市民センター

◎益田市

- ・ 8月26日…鎌手小学校
吉田小学校
吉田南小学校
いわみ芸術劇場



音楽室の確認（江津市）



音楽室の確認（浜田市）



搬出入経路の確認（益田市）



ホールの確認（浜田市）

6 手法開発研修会

手法開発研修会は、コーディネーターと演奏家がホール担当者と共に、地域交流プログラムの内容について、現地見で確認した市町村等ホールや学校の状況とニーズを踏まえ、合宿形式で集中的にプログラムづくりを行うものです。

今年度は3泊4日の日程で、島根県芸術文化センター「グラントワ」を会場として実施しました。

まず、演奏家とコーディネーターは、しまね文化振興財団および地域交流プログラムの実施団体となる3市のホール担当者とともに、担当する市ごとのチームに分かれ、地域交流プログラムで訪れる小学校でのアウトリーチの構成を緻密に練り上げる作業を行いました。中間発表やランスルーでは、関係者全員で意見を出し合い、内容をブラッシュアップしました。

最終日には益田市内の吉田南小学校でモデルアウトリーチを実施し、研修の成果を確かめました。

1 日 時 平成28年9月26日(月)～9月29日(木)

2 会 場 島根県芸術文化センター

3 スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目
	会場 A: 講義室、会場B: 練習室(チーム別・3室)、会場C: スタジオ1にて実施			
8:00				
9:00		チーム研修 (会場B)	チーム研修 (会場B)	吉田南小 アウトリーチ準備 9:00～10:30
10:00				モデルアウトリーチ① 10:30～11:15
11:00				転換
12:00		昼食	昼食	モデルアウトリーチ② 11:35～12:20
13:00		チーム研修 (会場B)	ランスルー準備	昼食・転換
14:00	開講式 & オリエンテーション (会場A)	中間発表① 14:00～15:00 (会場B)	ランスルー① 13:30～14:40 (会場C)	モデルアウトリーチ③ 14:00～14:45
15:00	楽器開梱・研修準備		休憩(20分)	撤収・移動
16:00	チーム研修 (会場B)	中間発表② 15:30～16:30 (会場B)	ランスルー② 15:00～16:10 (会場C)	反省会 & 開講式 (会場A)
17:00			休憩(20分)	
18:00		中間発表③ 17:00～18:00 (会場B)	ランスルー③ 16:30～17:40 (会場C)	楽器梱包・発送作業
19:00	撤収		休憩(20分)	
20:00		全体ミーティング(総括公演等) 18:30～20:00 (会場A)	チームミーティング (会場B)	解散
		撤収	撤収	

[Ⅱ. 平成28年度 事業記録]



開講式の様子



中間発表の様子



ランスルーの様子



反省会の様子

【益田市立吉田南小学校モデルアウトリーチ】

実施日	場所	演奏家	時間	クラス	参加者数
9/29(木)	音楽室	日原暢子、川村葵山、渡部祐子	3校時目	全6年生	33名
		石田真奈美、藤高理恵子、田野村聡	4校時目	全4年生	41名
		樋口千清代、三橋乙勢、森田博代	5校時目	全5年生	27名



モデルアウトリーチ（4年）



モデルアウトリーチ（5年）

7 地域交流プログラム 浜田市

【アウトリーチプログラム】

石田チームのテーマは「和楽器との出会い」。私たちの生活の身近なところにあり、ちょっとしたきっかけでいつからでも始めることができる和楽器の魅力や、中学生に伝えようと思いました。

まずはテンポの良い『夜叉舞』冒頭部分の演奏で、生徒の関心を一気に引き込みます。その後、幼少の頃から箏に親しんできた石田氏による『秋風幻想』、大学時代にサークル活動で尺八を始めた田野村氏による『魔切』、社会人になってから琵琶に出会った藤高氏による『那須与一』と、それぞれの

和楽器との出会いとその音色を披露しました。

最後に、「秋」のイメージを生徒に発表させた上で、3名で『仲秋詩抄』を演奏。想像力を更に広げるプログラムとなりました。

※P.18 アウトリーチ進行シート参照

実施団体：(公財)浜田市教育文化振興事業団
担 当 者：川神真由美
演 奏 家：石田真奈美、藤高理恵子、田野村聡
コーディネーター：米澤浩

	アウトリーチ①	アウトリーチ②	アウトリーチ③	アウトリーチ④
日 時	10/13 (木) 4校時目	10/13 (木) 5校時目	10/14 (金) 4校時目	10/14 (金) 5校時目
学校名	第一中学校	第一中学校	第一中学校	第一中学校
クラス	1年4組	1年5組	1年1・3組	1年2・3組
会 場	音楽室	音楽室	音楽室	音楽室
参加人数	29人	28人	42人	43人



【ホールプログラム(ワークショップ)】

今回のワークショップは、単なる楽器体験にとどまらず、ステージ上で合同合奏を行うことを大きな目標として組み立てられました。

楽器ごとに別室に分かれ、楽器の基本的な成り立ちや奏法などを各演奏家から学んだ後、あらかじめ田野村氏が作曲した簡単なフレーズをそれぞれに練習。その後、ホール舞台上に集合し、箏・尺八・琵琶という三種類の異なる楽器での合同合奏に参加者全員で挑み、無事、成功裏に終えることができました。

最後にはサプライズとして、演奏家3名による『仲秋詩抄』を演奏。本格的な照明が組まれた中での演奏に、参加者や見学者も引き込まれました。

コース名：和楽器に触れてみよう 邦楽ワークショップ
会 場：石央文化ホール
実 施 日：平成28年10月15日(土)
時 間：13:30～15:30
参加人数：30人



7 地域交流プログラム 江津市

【アウトリーチプログラム】

日原チームは、邦楽作品には自然の情景をテーマとしたものが多く、また邦楽器自体も木や竹、象牙など自然から得た素材で作られていることに着目し、鳥の声や虫の声、風の音など、自然を題材とした邦楽曲を演奏しました。

まずは、解説なしで『八重衣』から春の一節を演奏。その後、箏や三味線による虫の声や風の音の表現方法を実演し、『八重衣』の秋の一節で実際に確認させました。続いて楽器紹介も兼ねた尺八独奏『鶴の巣ごもり』、箏と十七絃による『百花譜』

で、邦楽器による表現の多様さを披露。最後に演奏した『さらし幻想曲』では、大自然の中で生きる人々のエネルギーを生徒に向けて訴えました。

※P.20 アウトリーチ進行シート参照

実施団体：公益財団法人江津市教育文化財団
 担当者：松島公典
 演奏家：日原暢子、川村葵山、渡部祐子
 コーディネーター：楠瀬寿賀子

	アウトリーチ①	アウトリーチ②	アウトリーチ③	アウトリーチ④
日時	10/20(木) 3校時目	10/20(木) 6校時目	10/21(金) 4校時目	10/21(金) 5校時目
学校名	桜江小学校	桜江中学校	津宮小学校	津宮小学校
クラス	5年・6年	1年	5年1組	5年2組
会場	音楽室	音楽室	音楽室	音楽室
参加人数	28人	21人	31人	31人



【ホールプログラム(ワークショップ)】

日原チームのワークショップでは、邦楽器の演奏体験にとどまらず、邦楽器を使って「音」で遊ぶことを意図したプログラムを展開しました。

まずは、3名の演奏による『夜叉舞』で華麗にスタート。その後、参加者に「江津の秋」をテーマとしてキーワードを出してもらい、キーワードを組み合わせてストーリーを創作。箏と尺八に分かれて練習を行った後に再度集合し、ストーリーに合わせて、箏・尺八、打楽器で参加者それぞれが自由に「音」を創作し、合奏を行いました。

最後にサプライズとして、講師3人が『さらし幻想曲』を披露。ダイナミックな演奏で参加者を魅了しました。

コース名：邦楽器の“音”で遊ぼう
 会場：江津総合市民センター 大会議室
 実施日：平成28年10月22日(土)
 時間：10:00～12:00
 参加人数：25人



7 地域交流プログラム 益田市

【アウトリーチプログラム】

樋口チームは、箏や三味線の音楽に合わせて歌を歌うことにより物語を表現する「山田流箏曲」の魅力子どもたちに分かりやすく伝えるために、アウトリーチプログラムを開発しました。

まずは、3名で『七福神』を演奏し、何名の神様が出てきたのかを質問。演奏者それぞれが登場人物の役割分担をしていることに気づかせます。

ついで、紙芝居や紙製の人形などを使って、『竹生島』のストーリーを分かりやすく説明。曲の終盤の一節を児童と一緒に歌ってみるという工夫も行

いました。

こうした結果、10分近い古典曲であるにもかかわらず、児童が集中力を切らすことなく聴き続け、演奏にも参加できる環境を作り上げました。

※P.22 アウトリーチ進行シート参照

実施団体：公益財団法人しまね文化振興財団
 担当者：田中純恵
 演奏家：樋口千清代、三橋乙勢、森田博代
 コーディネーター：谷垣内和子

	アウトリーチ①	アウトリーチ②	アウトリーチ③	アウトリーチ④
日時	10/27(木) 2校時目	10/27(木) 4校時目	10/27(木) 5校時目	10/28(金) 6校時目
学校名	吉田小学校	吉田小学校	吉田小学校	鎌手小学校
クラス	6年1組	6年2組	6年3組	4年～6年
会場	第二音楽室	第二音楽室	第二音楽室	多目的教室(音楽室)
参加人数	27人	27人	28人	42人



【ホールプログラム(ワークショップ)】

「弾き歌い」を大きな特徴とする山田流箏曲の魅力広く知ってもらうため、今回のワークショップでは、比較的分かりやすい『七福神』を題材として、その魅力を伝えようと企画されました。

まずは3名で『七福神』を演奏。七福神のイラストを用意し、演奏されている曲と題材とされている神様の関係を分かりやすく表現しています。その後、楽器・楽譜や演奏方法を順次、説明。説明者以外の2名は個別の指導に回りました。

最後に、「箏の演奏」と「歌を歌う」パートに

分かれて、それぞれに体験。山田流箏曲の魅力の一端に触れることができました。また、3人による別バージョンの『七福神』も演奏され、プロの迫力ある演奏を間近で楽しみました。

コース名：お箏で楽しむ“七福神”
 会場：いわみ芸術劇場 大ホール舞台
 実施日：平成28年10月29日(土)
 時間：13:30～15:30
 参加人数：26人



8 総括公演プログラム

総括公演プログラムとして、島根県芸術文化センター「グラントワ」において全演奏家によるコンサートが開催されました。

公演では、アウトリーチで演奏された曲に加え、山田流箏曲の古典曲の弾き歌いや、メルヘンチックな現代曲、琵琶の弾き語り、二十五絃箏の独奏など、各チームが個性を存分に発揮した幅広い内容のプログラムを用意。演奏の合間には山崎篤典アドバイザー（いわみ芸術劇場初代館長）が、インタビュー形式でアウトリーチやワークショップの思い出を各グループリーダーから伺い、これまでの活動を来場者に伝えました。

フィナーレとなる出演者全員による合同演奏では、グラントワ・ユース・コールの賛助出演を得て、寺嶋陸也氏作曲の「星の美しい村」を演奏。この曲はグラントワ開館に先だって委嘱・作曲された合唱曲の一つで、平成21年度、グラントワで邦楽地域活性化モデル事業総括演奏会を行った際に邦楽バージョンとして編曲されたものです。今回、さらに琵琶を加えての再編曲を委嘱しました。

邦楽というジャンルの幅広さと奥深さを感じさせる構成により、和楽器の持つ幅広い表現力や邦楽の新たな可能性を伝えるコンサートとなりました。

※P.42 資料参照（チラシ、パンフレット）

【ガラ・コンサート】

日 時 平成28年12月11日（日）14時開演
場 所 島根県芸術文化センター「グラントワ」
大ホール（設定席数1,500席）
演 奏 家 石田真奈美、藤高理恵子、田野村聡、
日原暢子、川村葵山、渡部祐子、
樋口千清代、三橋乙勢、森田博代
指 揮 広兼伸俊
賛助出演 グラントワ・ユース・コール
来場者数 320名

主 催 公益財団法人しまね文化振興財団
（いわみ芸術劇場）、公益財団法人浜
田市教育文化振興事業団（石央文化
ホール）、公益財団法人江津市教育
文化財団（江津市総合市民センター）
共 催 一般財団法人地域創造
後 援 益田市、益田市教育委員会、文化芸
術とふれあう協議会



「夏やせ」



「竹生島」



「胡桃の森で」



「那須与一」



「仲秋詩抄」



「琵琶行」



「さらし幻想曲」



インタビューの様子



「星の美しい村」

Ⅱ－２．平成28年度 アウトリーチ進行シート

アウトリーチ進行シートの掲載に当たって

平成28年度チーフコーディネーター 児玉 真

3組の演奏家たちによるアウトリーチの進行プランをそのままここに載せる。邦楽活性化事業は、島根（益田グラントワ）では2009年にモデル事業を行ってから7年ぶり2回目の実施になるが、その間に邦楽活性化事業もかなり熟れてきた。アウトリーチで行われる内容、コミュニケーションの手法なども以前よりも随分深みが増してできあがってきたようにも思える。とはいえ、みんなが同じになるのではアートとしての意味が無い。もっと様々な手法が生まれてくれると嬉しいのだけれど。

その意味からも今回行われた内容への再確認が必要だという気持ちがあって、アウトリーチの進行プランをメモ書きした。これは、もちろんその気になれば評価にも応用できると思うけれども、私としては今まで書いてきたものはアーティストの精神的な流れをよくするための勉強の材料としてかなり活用させてもらってきた。

一応、言い訳がましく書いておくと、このメモはアウトリーチの模様を全部メモで書き取ってまとめたものなので、書き落としもあるし、文字化による解りにくさを避けるために書き足したりした部分もあるので、行われたものと全く同じなわけではない。が、流れはかなり詳細にトレースしたつもりである。本当はこれを使って時間進行やコミュニケーション手法、うながしなど、こどもの反応を見ながらの解析が出来るとういのだろうと思うけれど、私は研究者ではないので精密に出来ない部分もあることをお詫びしておく。

1 アウトリーチ進行シート(浜田市)

2016年10月14日		島根県浜田市立第一中学校 1年1組・3組(42名) 4時間目	
出演者		石田真奈美(箏)、藤高理恵子(琵琶)、田野村聡(尺八)	
アウトリーチ先の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・浜田駅の近くの地域の中学校。中心からは少し離れている。音楽担当の先生ではないが、先生の中に元島根邦楽集団のメンバー(尺八)がいる。 ・こどもの反応はよく、比較的真剣に取り組めていたと思う。 	
時間	曲 目	内 容	備 考
00:00	M1夜叉舞 (箏、琵琶、尺八)	先生の挨拶 拍手~入場	
02:00		<p>こんにちは。私たちはおととい東京から来た。お魚が美味しいと聞いていたけど本当に美味しかった。あかても美味しかった。浜田の誇りだと思ふ。美味しいところを教えてくださいと嬉しい。</p> <p>自己紹介します。箏の石田真奈美です、琵琶の藤高理恵子です、尺八の田野村聡です。</p> <p>早速質問。前の楽器一つでも見たことがないと言う人。生で聴いたことがないと言う人。多いですね。どれも日本の楽器ですが見たことのない人が多いのが現状。私は小さい頃からやっているけれど、邦楽をやっている人のイメージはそんな人ばかり。でもそんなことはない。(田野村) そうなんです。私は中学の頃はこんな楽器のことは出会ってない。(藤高) 私も存在すら知らなかった。なんで今やっているのか、と言うようなことも話していきたいと思ひます。</p> <p>(石田) では、早速お箏から聴いてもらいたいと思ひます。私は弾くときに風景とか思い浮かべたり感情が沸き上がってくる曲が好きです。この曲もわくわくしたりぎゅうっと切なくなったり、かあっと熱い思いがこみ上げてくる。みんなも浜田の風景でここはどこか似合うかなど心で感じて欲しい。聴くことに集中するために目をつぶって聞いてもらいたいと思ひます。目を閉じたまま深呼吸をしてみよう<深呼吸>。そのまま聞こえてくる音色に耳を傾けてください。</p>	
05:00	M2秋風幻想 (箏ソロ)		
11:15		<p>私はおばあちゃんがいて、お箏も小さい頃から始めていた。でもピアノもやってたし歌も好きだし高校ではバンドも組んだりもしたけれど、なんで箏? おばあちゃんにいつも「真奈美ちゃんは芸大に行くのよ」と言われていて、で音楽も好きだし夢を叶えたい気持ちもあったし、おばあちゃんも好きだし夢も叶えたい。あと、お箏をやっている人が周りに居なくて、やるとかっこいいかなと思つて大学に入った。でも、いろいろなところで演奏すると、初めて見るとか聞くとか言う人が多くて、ちゃんと聞いてもらいたいと言う気持ちが芽生えて、そのために人の心に届く演奏をしたいと思う気持ちになった。その活動をしていく中で自分と全く違ったきっかけで始めた人に出会った。</p> <p>(田野村) そう、私の場合、中学では尺八などは知らなくてギターをやっていてバンドもやっていた。楽器を弾く人ってかっこいいじゃない。高校ではDJをやっていました。音楽は人より詳しいぞと言う気持ちはあった。岡山から島根大学に入ってそこである日歩いていたら「日本の音楽を演奏するサークル」の看板を見つけて、あれっと思つた。よく考えたら日本の音楽のことは全く知らなかった。それでそのサークルに入ったら出会ったのが尺八。これは竹で出来ているけれど切ってきて穴を開けただけのような楽器。でも工夫次第でいくらでもいろんな音が出る<いろいろな音を弾く>。大学出る頃には尺八で生きていこうと思つて東京に出てきて演奏家として始めた。</p>	

22:20	M3 魔切 (尺八ソロ)	今日は「魔切」という曲を聴いてもらいたい。魔は悪魔とか魔界とか悪いイメージ。それを切る。戦う感じ。自分の中にある悪いものと戦う気持ちで演奏しています。みんなも自分の中のそんなものと戦うイメージで聞いてもらおうと良いかもしれない。
27:20		(藤高) 私が琵琶を始めたのはもっと後。小中学校ではお芝居がすきでした。高校のときに父親の出張で家族でアメリカに行った。びっくりしたことが2つある。一つはみんな自分の生まれた国の文化や歴史を話してくれたけれど、私は日本のことを知らないことにショックでした。で、日本のことを知らなくちゃと思った。もう一つは英語で大変なのだけれど妹がフルートをやっていてそれでみんなと仲良くなったり交流が出来てるのがうらやましかった。でもすぐに何かを始めたわけではなく、社員にもなって、それで何かやりたいなと思って、日本のことと楽器と両方出来る和楽器が良いなと思った。琵琶と出会ったのは、琵琶は話をしてそれに音楽をつける。お芝居も出来るので始めた。あるとき先生が弾いた「那須与一」をきいて本気になって勉強をしてみんなの前で弾けるようになった。平家物語ですが、言葉も古しい何を言っているのかわからないかも。でもこんな音なんだと思って聴いてくれればと思います。
33:00	M4那須与一 (琵琶ソロ)	
38:30		(石田) 最初に話した和楽器をやっている人のイメージとちょっと違ったでしょ。和楽器は身近でいつでも始められる楽器。是非、当たり前になって欲しいと思っています。 最後の曲。テーマは秋ですね。何を思い出す(松茸、スイーツ、こたつ) こたつ? ちょっと早いかな。やっとな涼しくなった気がします。秋は葉っぱが散ってきて夏から冬に移っていく季節が秋かなと思います。仲秋詩抄、と言う曲。その前にこの新しく出てきた楽器を紹介します。十七絃という楽器。いろいろな秋のイメージがあると思うけれどこの曲を聴いてどんな風を感じるでしょう…。
42:30	M5仲秋詩抄 (尺八、琵琶、十七絃)	
49:50		ありがとうございました。和楽器もっと聴きたいと思った人。(…)もういいやと思った人(…) コンサートがあります。<ガラコン告知> 先生、お礼

2 アウトリーチ進行シート(江津市)

2016年10月21日		鳥根県江津市立津宮小学校 5年1組(31名) 4時間目	
出演者		日原暢子(箏)、川村葵山(尺八)、渡部祐子(三味線)	
アウトリーチ先の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・江津市西部の海岸沿いにある地区。 ・講堂(体育館)の舞台の後ろに設置された音楽室。珍しい立地である。 ・先生の事前の持って行き方があるのか生徒の期待感が高いと感じた。 	
時間	曲 目	内 容	備 考
00:00		入場	導入
00:50	M1八重衣から春 (箏、尺八、三味線)	(君がため春の野にいでて若菜摘む…)	
03:30		<p>(日原) おはようございます。私たちは日本の音楽をみんなに伝えたいと思ってやってきました。江津は山、川とか水があって本当にすてきな町。日本の音楽というものも自然とか生きているもので出来ていたり、表したりしています。それを感じてくれると嬉しい。</p> <p>私は箏を弾く日原暢子と言います。(各々自己紹介)</p> <p>次の曲は秋の曲。みんなに秋の虫の鳴き声について考えて、とお願いしましたがどんなのがあったかな。 (こおろぎ=リンリン、ジージー)(鈴虫=リンリン)(クツワムシ=??)。うまおいとかは?(知らない)キリギリスもいるね。この曲は、虫の歌詞のところの鳴き声を表す音が楽器で出てくる。何か所か取り出してやってみます<箏と三味線で実際に聞いてもらう>他にも風の音とかも表現している。いろんな音が出てくるので探しながら聞いてみてください。</p>	<p>挨拶 来た目的や伝えたいこと</p> <p>自己紹介</p> <p>虫の声のやりとり 楽器で虫の声を表す</p>
12:20	M2八重衣から秋 (箏、尺八、三味線)		
14:00		<p>(川村) 虫の声は聞こえた?色々な演奏の仕方がある。ここで尺八という楽器について紹介したい。見たことある人?(2人ほど)なんで出来てる?(竹)正解!竹の根っこの部分から、節も残してある。指で押さえる穴が?(4)5つです。リコーダーより?少ないね。でもリコーダーと同じような音が出せる。あごを動かすと音の高さが変わる。あと、尺八ならではの音の出し方もある<むらいきを聞かせる>ちょっとびっくりするような音だね。わざときれいでない音で味付けをし彩りを出すために使われる。</p> <p>では、鶴の親子の愛情を表す曲。お母さんやお父さんを好きな人?(10人くらい)ちょっと恥ずかしいかな。私は7歳の娘がいて、好きと言ってくれると嬉しい。なかなか機会がないから言ってみると良いかもしれない。あと、鶴の鳴き声って知ってる(知らない) こういう鳴き声をする<吹く>色々な吹き方が出てくるので見てみてください。</p>	
21:30	M3鶴の巣ごもり (尺八ソロ)		
26:00		<p>(渡部) 自然の音がたくさんあって面白いと思います。次は箏の話。</p> <p>みんなの左手にあるのは古い箏で13本の絃が張ってあります。右側のは17本の絃が張ってある十七絃といいます。十三絃はキラキラと高い音が十七絃は低い音が特徴。大きさも高さ、厚みもこんなに違う。ではこの楽器は何の木で出来ている?(松、杉、竹、柿などなど) うーん、タンスとかに使う(桐?) そう、桐は呼吸する木と言われていて気候によって空気や湿気を吸ったり吐いたりしている。絃の方は今は</p>	

31:30	M4百花譜 (十三絃と十七絃)	<p>テトロンというもので出来ているけれど、昔は絹糸で作っていた。爪は…あと三味線のばちも象牙で出来ているので大切に使っている。全部自然のもの。 次に弾く百花譜という曲は、春と秋と冬を演奏する。出だしをちょっと聞いてみてください<弾く>。春は満開の桜を想像している、秋は<弾く>。こんな風に色づいた木の葉がはらはらと風に舞っていて、その背景に風が吹いている。冬は雪の上を踏みしめて歩く重い感じ<弾く>。私たちもそれぞれに季節を感じながら弾くので、みんなも自分の季節を感じてください。</p>
37:00		<p>(日原) ありがとうございます。いろいろな景色が見えたかな。今日は自然をあらわした音や曲を聴いてもらいました。でも自然と言っても美しいものだけではありません。自然の怖さを思い知ることもあります。今年も熊本で地震がありましたけれど、5年前の震災のあとで震災の被災者がしばらくしてから「今一番必要としているものはなんですか」と聞かれて「今こそ歌が欲しい」と言っていたのが印象に残っていて、音楽は食べ物や住むところと同じように生きるのに必要なものだと思う。私たちはそんなエネルギーを信じて音楽をやっています。 最後は大自然の中に生きる人のエネルギーを表現した曲、さらし幻想曲を弾きます。さらしというのは布ざらしといって、川で布をさらしてお日様の力を借りてする作業から出た言葉。今は洗濯機とかあるけれどそういう大変な作業も昔は自分の手と足と身体を使ってやっていました。そういう自然の中で生きる人の生き活きとした姿を描いていると思います。 このさらし幻想曲という曲は3人がとても好きな曲で、今日江津という自然の豊かな場所でみんなの前で弾くのを楽しみにしてきました。ではさらし幻想曲を聴いてください。</p>
41:00	M5さらし幻想曲 (箏、尺八、三味線)	
50:00		<p>ありがとうございます。</p> <p>※コンサートの告知 生徒の感想(10名ほど)</p>

3 アウトリーチ進行シート(益田市)

2016年10月28日		鳥根県益田市立鎌手小学校 4～6年生(42名) 6時間目	
出演者		樋口千清代(箏)、三橋乙勢(三味線)、森田博代(箏)	
アウトリーチ先の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・益田市東部の海岸沿いの学年10数名の小さな学校。純朴な風情。 ・益田は邦楽に力を入れているが、この学校ではこれまで邦楽器の生の音は聞いたことがない。 	
時間	曲 目	内 容	備 考
00:00		<p>入場</p> <p>(樋口) こんにちは、今日は皆さんにお箏の音楽を聞いてもらおうと思ってきました。まずは自己紹介。</p> <p>私はお箏を弾く樋口千清代と言います。ひぐっちゃんと呼ばれています。私は三味線を担当する三橋乙勢、乙ちゃんと呼ばれています。お箏を担当する森田博代と言います、私は森ちゃんと言われています。よろしく。さて早速聞いたりしてもらいますが、弾いたり聴いたりしたことのある人(数人)。あ、居ますね。では早速聴いてまいります、私たちの演奏は、箏や三味線の演奏と一緒に歌も歌います。それが山田流箏曲というのです。実際にどう歌うのか、まず聴いてください。最初は七福神。でも今日はみんな出てきません。何人出てくるでしょうか。</p>	
3:25	M1 七福神(恵比寿、大黒天、弁財天)		
5:00	(箏2、三味線)	<p>何人居た?(3人) 正解、恵比寿様、大黒天、最後に乙ちゃんが弁財天。それぞれ役割分担をしながらやるんです。でもお箏は単なる伴奏ではなく、よりかっこよくするために箏を弾く。みんなが歌を歌うときに先生がピアノを弾いてくれると思うけれど、ピアノが入ると一人で歌うときと違うよね。歌、箏、三味線と一緒にいってのが山田流の音楽。どんなになっているか。どう重なっていくのかを、森ちゃんに。</p> <p>(森田) まず、歌だけ聴いて<なみかぜしきりに鳴動して、下界の龍神あらわれい>、次に同じ場所をお箏だけ聴いてください<弾く>。箏は、この白いのを動かしたり左手を使ったり右手の爪ではじく。それ以外にも波のようとか爪をこすって風の音とか、虫の音を出したりできます。歌の意味を感じやすくなるのではないかと思う。一緒にやってみる。想像しやすくなったのではないかと思います。</p> <p>(三橋) 同じところを三味線だけで聞いてもらいます<弾く>。3つの絃がある、下は太鼓になっている。だからこれはバチと言って叩いたり掬ったりはじいたりして音を出します。ではみんなで同じところを…<弾く>。ずいぶん印象が変わったと思います。</p>	
13:00		<p>(樋口) 次に、竹生島と言う曲。この島はどこの湖にあるか? 1 宍道湖、2 琵琶湖、3 摩周湖。どう?(摩周湖)。実は琵琶湖にある今実在している島で、そこに今も伝わるお話。それを、紙芝居にしてきたので、どんな話なのかお話ししたい。</p> <p><紙芝居を使って、伴奏付きでお話する> 話=三橋、台詞=樋口、伴奏=森田。</p>	

20:00		<p>それで今日は私が麻呂君の役割をやります。後ろの歌詞の中で麻呂の台詞はこの場所<麻呂の印を貼る>。三味線担当の乙ちゃんはおじいさんの役<おじいさんの台詞の場所に印を>。娘さんの役は私、森ちゃんがやる。みんなにも役割をやって欲しいところがある。ここ。「なみかぜしきりに鳴動して、下界の龍神あらわれいで」ここをみんなで盛り上げて欲しい。やってみましょう。ここはしゃべる音程と似たように書かれているので、そのまましゃべるように歌えばよい。</p> <p>やってみよう。<深呼吸、姿勢を注意>はいそれでいいです。合図をします。<みんなでやってみる。直してもう一回></p> <p>もうワンランクアップしようか。<波風しきりのしを SHI に、龍神のりゅを「りう」と発音する。やってみる></p> <p>もう一回やってみましょう。</p> <p>今から私たち、最初から真剣に演奏するので、遠慮しないでみんなも出て欲しい。その出る直前の音はこんな感じ<やってみる>。首で合図します。</p> <p>もう一つ、娘が天女に変身するところに「楽」と書いてある。娘が天女になって出てくるところ。花が舞い上がって良いにおいがして天女が出てくる。その楽の入りにするかけ声が少し変わっている。ちょっと聴いてみて<演奏する>これがきっかけになるので、聞いたら姿勢を。準備をしてください。</p> <p>では竹生島、行きます。</p>	
35:00	M2 竹生島 (箏2、三味線)		
45:00		<p>拍手一。</p> <p>ありがとうございました。今日は竹生島を聞いてもらいましたが、3人みんな声も違うし、私は乙ちゃんのようなきれいな声でもない。でも自分の洪い声を好きだし強みだと思っています。</p> <p>生徒感想 (3人)。先生の合図で、拍手で終了</p>	

◎邦楽・邦楽器の音がもつ力

平成28年度コーディネーター
公益財団法人せたがや文化財団 音楽事業部 楠瀬 寿賀子

石井眞木が作曲した『輝夜姫』というバレエ作品を見たのは、ずいぶん以前のことだ。調べてみると、この作品は、もともとは日本太鼓群と打楽器群のための交響的組曲として1984年にベルリンで初演され、その後雅楽を加えた版がバレエ作品となり、ジリ・キリアンの振付によってネーデルランド・ダンス・シアターによって日本初演されたのは1993年。いまから四半世紀前のことになる。

バレエ作品の詳細は省くが、物語の中で輝夜姫をめぐる村人たちと貴族たちが戦う場面があり、その両者が“日本太鼓群”と“打楽器群”（西洋楽器）であらわされていた（日本太鼓＝鼓童、打楽器＝ストラスブル・パーカッション・アンサンブルと記憶している）。物語では村人たちが勝つのだが、なによりそのときの和太鼓の圧倒的なパワーに圧倒された。それは集団の音圧の強さもさることながら、一打・一音に込められた魂のようなものを感じたのだった。

伊福部昭に師事した石井眞木は日本の楽器を使った作品を多く残した作曲家だが、それまでに作品を聴いたことがなく、もちろん邦楽や日本の楽器に触れた機会もほとんど記憶にない（子どものころ近所のお祭りにも行かなかったのも、お囃子すら生の記憶はない）。だが、その『輝夜姫』においての衝撃はまざまざと覚えている。

とはいえ、その後もあまり邦楽の積極的な聴き手とはならず、以前勤めていたホールで開かれていた日本音楽集団の定期演奏会（年に4回ないしは2回開催）や、たまたま幼少期からの知人である篠笛奏者の演奏会を聴いたり、自身の企画で両者それぞれの演奏会やワークショップを行う程度のことです。もっと知りたいという気持ちが芽生えながらも、関心を広げることを怠っていたように思う。

そんな邦楽ほぼ初心者ですが、今回邦楽活性化事業に携わって一番感じたことは、そもそも強い音の和太鼓ばかりでなく、やはり日本の伝統楽器には一音一音の強さ・深さがあるということだ。おもに西洋の楽器の音（むしろ響きと言ったほうがよいかもしれないが）に親しんできた者にとって、それとはまた別種の魅力をもったものであった。

先にも書いたとおり、邦楽の演奏をまったく聴いたことがないわけではないが、尺八や篠笛の独奏のほか古典の作品は少なく、現代の作曲家の作品が多かった。今回、三曲という形での古典を聴いて、あらためてこのことを考えてみると、じつは現代作品を聴いているかぎり、たとえ楽器が日本の楽器であっても、作品の中に邦楽の要素が少なからずあっても、感覚的には同じように聴いていたということに気づく。

今回初めて邦楽のアウトリーチとワークショップのプログラムについて考える機会を得て、まず思ったことは、筆者がこれまで携わってきた公共ホール音楽活性化事業やアウトリーチフォーラム事業のコーディネーターとして、また、自分の企画として実施してきた西洋のクラシック音楽での経験がどのように活かせるかということだったのだが、実際には“どのように”を考える間もなく、演奏家たちが組み立てようとしているアウトリーチのプログラム自体が、邦楽や邦楽器（三味線、箏、尺八）について知っていく過程と重なった。自身の経験などより、アウトリーチを体験する子どもたちの感覚に近かったのではないだろうか。

演奏会はもちろんアウトリーチで邦楽を扱うプログラムにおいては、古典の三曲や伝統の形の本質や（プログラムで扱うかどうかにかかわらず）、古典・現代音楽かぎらず、邦楽作品に描き出されるものの意味、邦楽器そのものの力をどのように活かせるか、ということ、そして邦楽の演奏上のしきたりなどもより深く理解して臨み、邦楽や邦楽器に触れてその力が少なからず聴き手に影響を及ぼすことを目指したい。

ワークショップについては、その内容を地域交流プログラム報告に簡単に記したが、今回まずは、楽器やその音で自由に遊んでみる、ということを入り口として邦楽に親しんでもらうことが狙いだった。演奏家たちは悩みながらも楽しんでいただようであったし、彼らにとってもよい刺激になったと思うが、真摯に取り組む演奏家とともに考え、邦楽と邦楽器の奥深さに触れれば触れるほど、そこからさらに伝統の形、それは単に楽器の音や演奏法ということだけでなく、音楽があらわす“もの”や“こと”、演奏する際の所作も含めた、邦楽ならではのワークショップというものの可能性を考えてみたい、という意欲がわく体験であった。

Ⅲ. 平成28年度 事業報告

1 主催団体報告

ディレクター

[公益財団法人しまね文化振興財団 いわみ芸術劇場 文化事業課長 山崎 晋志]

島根県芸術文化センター「グラントワ」（いわみ芸術劇場）は、開館して11年になります。開館初年度から県西部の邦楽分野活性化の中心的役割として、流派、所属、年齢、経験を超え地域の邦楽愛好家や先生方にお集まりいただき、劇場フランチャイズ団体「島根邦楽集団」を創立、様々な邦楽事業を展開してきました。そして平成21年度、地域創造と本事業のアドバイザー山崎篤典氏が当劇場館長時代に一緒に取り組まれたのが「平成21年度邦楽地域活性化モデル事業」です。

翌年から「地域創造・邦楽地域活性化事業」として全国で展開されていますが、平成28年度はぜひとも島根県で実施したいと当館が幹事館となり、石中央文化ホール（浜田市）、江津市総合市民センター（江津市）に呼びかけ申請させていただきました。県西部地域は人口減少が進み、市町の文化ホールは思うような事業展開ができず苦勞されている中、当館は県立施設として特に県西部のホール連携に力を入れています。本事業を通じて、地域交流プログラムのノウハウや各地方の状況を知り、市町ホールとの新たな事業展開に繋がればとの思いでした。

本事業を実施したことで、沢山の収穫と発見がありました。心に強く残った事を3つご紹介します。

一つは、「邦楽普及のための環境整備の進展」です。例えば、ワークショップやアウトリーチを実施する場合の楽器確保や運搬の問題ですが、特に苦勞すること無く進めることができました。担当した職員は初めてこのような大きな事業を受け持ちましたが、邦楽フランチャイズ団体担当の経験を生かしながら意欲的に取り組んでくれました。サポートに回った職員はモデル事業の時の担当者です。その時の経験に基づいて随所でサポートをしてくれました。各地方の状況を良くご存知のプロデューサーやコーディネーターの方々に、当館が取り組んできた邦楽事業の成果であるとの言葉をいただき、大きな自信となりました。また、邦楽に対して各市教育現場で大変理解があり、独自の取り組みがなされている事を知ることができたことも収穫でした。

二つ目は、「邦楽活性化へのヒントが得られた」ことです。私たちが邦楽の事業を企画する時には、常に次世代育成を強く意識します。今回お越しいただいた3組・9名の演奏家の皆様も、「邦楽の魅力をどう伝えよう興味を持ってもらうか？」ということ強く意識され本事業に臨まれていたと思います。各チームともコーディネーターの方々と、知恵を絞って準備されました。そんな熱い思いに引っ張られる形で、各ホールもより良い環境を目指してできる限りの準備をしました。演奏家の皆様の「伝えたい」という思いの強さ、コーディネーターの方の経験からくる助言・工夫は、今後の邦楽の普及・次世代育成の事業を企画する時に生かしたいと思います。

三つ目は、「地域文化の可能性の発見」です。石中央文化ホールと江津市総合市民センターの本事業への取組みは、両館ともこれまでアウトリーチやワークショップはあまり実施されていない中、すばらしい地域交流プログラムを作り上げていました。ご担当の方々の的確なお仕事に幹事館の当館もずいぶん助けられました。浜田市は、舞台技術職員の方がより良いプログラムとなるよう次々とアイデアを出され、当日は見事な運営と照明効果でした。江津市は、ご担当の方が経験が無いので勉強したいと泊りがけで手法開発研修に参加され、今年度着任された新館長さんも常に研修や現場に足を運んで見届けていただきました。また、両館ともこのたびご縁のあった演奏家の方々に依頼して、演奏会やアウトリーチの事業をすぐに計画されました。まさに、本事業の目指す「邦楽による地域（のホール）活性」を実感しています。

最後に、本事業を実施できたことはこの地域のかげがえの無い財産となりました。関係者の皆様、地域創造のスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

1 主催団体報告

担当者

[公益財団法人しまね文化振興財団 いわみ芸術劇場 文化事業課 田中 純恵]

1. 事業全体に対する所感

本事業は全国初のモデル事業として7年前いわみ芸術劇場から始まりました。その時に培った経験が、当時の担当者から課員に引き継がれ、邦楽のみならず、様々なアウトリーチを実施する上で今でも大変役に立っています。今回は、その経験や知識を浜田市・江津市の文化施設職員の方々とも共有し、島根県西部の文化振興の活性化に繋げていきたいと思い、本事業に応募をさせていただきました。アウトリーチ、ワークショップ、ガラコンサートと丁寧にプログラムが造られていく過程を浜田・江津の職員の皆さんと共有できたことは、本当に貴重な体験であり、連携して本事業に取り組むことができたことは大きな財産となりました。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦勞した点

本事業では、演奏家の皆さんやコーディネーターの皆さん、地域創造の皆さん…様々な立場の方との出会いがありました。それぞれの立場での「本気」の仕事の間近で見ることができ、とても幸せな時間だったと思います。その「本気」に答える意味でも、沢山のお客様に最後のガラコンサートにお越しいただけるよう頑張らなければいけないというプレッシャーがありました。

3. 苦勞したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

近隣の邦楽団体、文化団体への協力要請・新聞、市町村情報誌等への掲載・地域プログラム実施校への協力要請・劇場会員へのチラシ配布、地元ケーブルテレビでの広報、ブログやFacebookなどでの告知等々、様々な広報活動を行いました。中でも地元の邦楽団体の方々には、自分たちの勉強の為に、そして地域の邦楽発展のためにと多大なる広報協力をいただき、本当に感謝しています。チケット発売日と手法開発研修会や地域プログラムの時期が重なったことで、広報が遅れてしまったことが反省として残っていますが、沢山の方にご協力いただき、320名の方にご来場いただくことができました。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

地域プログラムやガラコンサートなど決められたプロセスを進めていく上でも沢山のことを学ばせていただきましたが、それと同じくらい皆さんとお話しさせていただく中にも沢山の気付きや学びがあり、自分自身の成長となりました。

総括演奏会においては、「音色が心に響いた」「心地よい時間だった」「またぜひ聴きたい」という声を沢山いただきました。皆さんと一緒に地元の方々に喜んでいただける演奏会を開催できたことが最大の成果であったと思います。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

いわみ芸術劇場では、毎年小中学生向けのキッズ邦楽塾を開催していますが、今回の事業をきっかけに、来年度は当館と江津市総合市民センターを会場にお箏のキッズ邦楽塾を開催することとなりました。この邦楽塾が子ども達にとって楽しく邦楽を学べる場所となり、地域を超えて新しい交流が持てる場所になれば嬉しく思います。

そして、子ども達だけでなく沢山の方に邦楽を楽しんでいただく機会を提供できるよう、継続して邦楽事業に取り組んでいきたいと思っています。

2 アドバイザー総評

[音楽・舞台プロデューサー 山崎 篤典]

今年度の「邦楽地域活性化事業」は、7年前モデルアウトリーチ事業を行った島根県芸術文化センター「グラントワ」を中心に、県西部3か所で開催された。7年前私は受け入れ先の劇場館長として関わったが、今回はアドバイザーとして参加させていただいた。

さて、以前チーフプロデューサー児玉真氏がこの事業に対しての基本的考えを述べていた。要約すると以下の3点である。

- ①ホール職員と演奏家の意識向上、およびアウトリーチ手法の開発とその能力の獲得
- ②県や財団職員のコーディネーター能力の向上
- ③県と市町村が協働してのアウトリーチ手法開発とその能力の獲得

以上に留意して、今回の事業を振り返ってみよう。なお今回児玉さんはアウトリーチについて執筆されるとのことなので、拙稿でのアウトリーチ報告の詳細は避けておく。

島根県は東西に長い。当然色々な面で東西の違いがある。藩や経済圏の違いは他県でもあることなのだが、特に島根に於ける東西の差には大きいものがある。言葉の違い（出雲地方と違い、石見は山口や広島同様、明るくて強い）はその最たるものであり、それは考え方や行動に強い影響を与えている。また雑煮などの食文化も神楽など芸能でもかなり違う。しかし幸い、子どもたちはそんなことには縛られない。いくら地域差があったとしても、音楽の受け止め方は全国共通のことだ。ましてや今回は石見地域3か所だったから、演奏家諸君はその違いを体験することは余りなかったことだろう。

さて今回メンバーの特徴は、浜田市担当石田さんチームへの琵琶の参加だろう。いままでこの事業には、箏、尺八、三味線、胡弓などが参加してきたが、今回アウトリーチで琵琶をどう扱うのか非常に興味深かったのだが、藤高さんによる演奏は、期待を裏切らなかった。益田市担当山田流の樋口さんたちは「竹生島」の一節を子供たちに歌わせていたが、邦楽の理解にとっても有効だと思う。また江津市担当日原さんチームは、演奏中の地震というアクシデントにも関わらず冷静な対処をしていたのが印象的だった。

ホールプログラムのワークショップ。浜田の石史文化ホールでは琵琶の参加者数が心配されたが杞憂に終わり、箏や尺八参加者と合奏することが出来た。またワークショップ最後のミニコンサートでは、ホール職員が演奏者と意見交換を密にして効果的照明をもたらせていた。石田さんが「ホール職員との協働は事業目的に合致している」と発言していたが、演奏家がそういう意識を強く持ってくれたのは嬉しい。江津市総合市民センターでは、日原さんがブレインストーミング手法を使い参加者から企画を出し合ってもらった。そこで出たアイデアをもとに物語を作成し、音をつけていくというもの。コーディネーター楠瀬さんとの意見交換に時間をかけた成果が出ていた。益田では、グラントワが毎年開催しているキッズ邦楽塾の歴史もあり、参加者が多かった。特に益田地域担当の樋口さんがこの事業3度目の参加ということ、コーディネータ谷垣内さんの適切なアドバイスもあり、事業趣旨を十分理解していたことも大きい。

総括演奏会は、1500名収容の大ホールにて開催された。いままでで一番収容人数が多いホールでの実施であったため、残念ながら入場者数は少なかったが、響きの良いホールでの演奏は各チームの特色を良く出しており、観客も満足していたようだ。樋口チームは、樋口さんの弾き歌い「夏やせ」と三人による「竹生島」。石田チームは筑前琵琶の「那須与一」と十七絃・琵琶・尺八による「仲秋詩抄」。日原チームは日原さん二十五絃ソロによる「琵琶行」と箏・三絃・尺八による「さらし幻想曲」という、かなりバラエティに富んだプログラム。そして合同曲は7年前にも演奏された「星の美しい村」だった。合同曲は、作曲家寺嶋陸也氏自身があらたに琵琶を追加しての編曲をしてくれたが、前半のインストルメンタル（楽器演奏）部分をより効果的なものにした。日本語歌唱と相性の良い和楽器が、グラントワ・ユース・コール

の合唱をより引き立たせていた。石田チームコーディネータ米澤さんが現役演奏家ならではの知識提供により、演奏会の進行全体がスムーズであったことも付け加えておく。

地域出身者ではない演奏家と事業を行うには、まずはホール職員が招聘する演奏家のファンになること、また演奏家にその地域のファンになってもらうことが大事である。今回は、それぞれのホール職員が演奏家の魅力を事前に理解していたことが広報に好影響をもたらせていたと思う。確かにガラコンサートでもホール職員と演奏家との協働作業はある。しかしそれは会場となるメインのホール（グラントワ）のことであり、他の地域（今回は浜田や江津）では難しいことだ。しかしワークショップでは、その協働作業がしやすいのだ。

グラントワでは、7年前のモデルアウトリーチ事業時には専門家に頼りがちであったホール職員の成長が著しかった。このところグラントワで積極的に取り組んでいる各種アウトリーチや合唱塾、キッズ邦楽塾の経験が、彼女たちの自立を促したと思われる。コーディネーター能力育成には、それなりに時間がかかるのである。

石見地域は、島根県内のみならず広島や山口と文化を影響し合う土地だ。前身の石西県民文化会館時代からの関係性があるとはいえ、グラントワが島根県民会館並みの県立施設としてコーディネート機能を発揮するにはまだ時間がかかるだろう。

前述したように演奏家はその地域出身者でなくても、実施した地域が演奏家のファンになることは多い。またその逆もある。住民のみならずホール職員にとって大事な演奏家となり、演奏家にとってその地域が第2第3の故郷になっていくわけだ。この邦楽地域活性化事業でも、演奏家とその後も関係が継続されている地域があると聞く。今回の演奏家たちも、それぞれの地域でファンを獲得したようだ。無論今回の演奏家に限らず、多くの邦楽演奏家を招いて邦楽事業に取り組んでいただけたら、なお幸いである。

最後に、チーフコーディネーター兎玉さんが今回全日程参加されたことで、演奏家やホール職員のモチベーションが保持され続けたこと。いつもながら地域創造職員の献身的サポートがあったことを報告しておく。

③ 地域交流プログラム報告 ① 浜田市

浜田市担当コーディネーター

[邦楽演奏家、NPO 法人日本音楽集団 副代表 米澤 浩]

メッセージを携えたアーティスト

石田真奈美さん（リーダー／箏・十七絃）・田野村聡さん（尺八）・藤高理恵子さん（筑前琵琶）の3名が浜田市で『地域交流プログラム』を実施。アウトリーチ（以下、OR）は浜田市立第一中学校の1年生5クラスを対象に4公演、ホールプログラムは石央文化ホールで3種の楽器のワークショップ（以下、WS）と合同発表を行いました。今回『石田・浜田チーム』のコーディネートを担当し、3点が強く印象に残りました。

先ず、「石田さんが明確な意図を持ち、それを実現するためにチームを組んだ」ことです。

リーダーが明確な意図を持ってチームを編成するのは他でも同じですが、石田さんは「ORで《邦楽器と出合った時期や切っ掛けは演奏家それぞれで異なり、邦楽器は決して遠い存在ではない。》というメッセージを子ども達に伝える」ために本事業に臨み、これは今までとは異なるアーティストのメッセージでした。

これを伝えるため、「幼少より箏を弾いてきた自分、大学時代から尺八を始めた田野村さん、そして社会人になってから琵琶と出会いその後プロへと進んだ藤高さんの3名でチームを編成した。」ことを聞き、「石田チーム」のORプログラムの骨子は既に完成し次はいかに肉付けして行くかだけ、ORの手法を固めさえすれば必ずアーティストのメッセージが籠った説得力のあるプログラムになることを確信しました。

2点目は、「石田チーム」と「石央文化ホール」の方々との出会いでした。

事業のハブホール「グラントワ」にとってはモデル事業に続いて2度目の本事業ですが、市町村ホールにとっては「邦楽関連事業」自体がなじみの薄い事業であることは否めません。演奏家にとって自分達が作り上げるOR・WSプログラムに市町村ホールのご担当者の理解と助力が得られるかどうかは非常に重要な問題で、特に初めて本格的にORプログラムの構築に取り組んだアーティストにとっては、実績を積みスキルアップし始める段階でのOR事業を成功させられるかどうか？は、非常に大きな問題です。一方、市町村ホールのご担当者の方々にとっては、馴染みの薄い邦楽事業を実施するにあたり、明確な意思と情熱を持ったアーティストが現場に赴いて説得力のあるORプログラムを実践し、「有意義で将来の展開も期待できる事業」としてWSプログラムをホールで実施してくれるかどうか？は、事業の《肝》に違いないと思います。

これらから、「石田チーム」にとっては「石央文化ホール」の事業・舞台ご担当者の方々とは本事業に取り組めたことはアーティストとして本当に幸せなことでしたし、「石央文化ホール」さんにとっては邦楽事業を実施するにあたり、明確な意思と情熱を持ったアーティストが事業を担当したことで邦楽事業の将来に可能性を感じて頂けたことと思います。

最後に3点目は、WSプログラムがこれまで私が経験したことの無い規模になったことです。

当初私には、箏・尺八・琵琶3種の楽器でどうWSが成立するか？全体像を想定できませんでしたが、アーティストが相談して作曲も手掛ける田野村さんがモチーフとなるメロディーを作り、それを3人が自分の楽器の特徴を活かしてアレンジして個別にWSを行い、その後3種の楽器WSに参加した浜田の皆さん全員で〈合同演奏の成果発表〉を行うという骨子が出来上がりました。WSで使用する楽器は浜田市教育委員会からの協力を仰ぐ他、藤高さんが自分の琵琶6面を持ち込んでの実施でした。会場の設営では「石央文化ホール」の舞台ご担当者の方が全面的に協力して下さり、ホリ幕を使っての本格的な照明まで仕込んで下さいました。アーティストは持てるものを全て出し、ホールの事業ご担当者は可能な限りWSを盛り立てるべく助力して下さい、加えて市の教育委員会が物心両面で応援して下さいという文字通り「総力を挙げた取り組み」でのWS規模は強く印象に残るものでした。

ホールと浜田市からのご助力は、力強いエールとなってアーティストに伝わったに違いありません。

今年度のOR・WS事業により浜田市での邦楽関連事業が広がりを見せることを願って止みませんし、卑近で恐縮ながら今年度『石田・浜田チーム』のコーディネートを携われたことは「コーディネーター冥利」に尽きる思いがし、本事業の可能性を実感する1年となりました。

③ 地域交流プログラム報告 ① 浜田市

浜田市担当者

[公益財団法人浜田市教育文化振興事業団（石中央文化ホール） 川神 真由美]

1. 事業全体に対する所感

邦楽はとても馴染みが薄く、以前取組んだ事業で「日本の芸」のワークショップを行った際、参加者を集めることが困難であったことがあり、どのように取り組めばいいのか不安であった。また、アウトリーチとしての学校側の受け入れについても心配があったが、最初に出向いた学校の校長先生に大変快く引き受けていただき、その時点でアウトリーチの学校が決定した。更に、今回の事業にとっても熱心な先生がおられ楽器の調達から全てにおいてスムーズに運ぶことができ、初めての事業であったが、成功させることができた。

※(舞台担当者から)

打ち合わせの段階から、コーディネーターを始め、演奏家の皆様のご要望をいただくことができ楽しく充実した舞台づくりができた。また、ワークショップの合同演奏（成果発表）では、参加者は達成感を体感された機会であったと思う。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

ワークショップの参加者の確保でした。参加者を募集する際、経験者と未経験者を分けて別々にワークショップを実施し、より多くの方が参加していただくことを計画した。経験者の方の流派、経験年数、内容等考慮せず計画をしたため、コーディネーターの先生方には大変ご迷惑をおかけし、事業を進めていくことの難しさを痛感した。また、ワークショップの際に使用する箏の運搬には、地元業者を始め、他の施設の方々に大変お世話になりました。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をされましたか。

アウトリーチ先の学校、または市内で邦楽を積極的に取り組んでいる学校を対象にチラシを配布した。しかし、テスト期間中や他の行事があり思うような反応なく、地域の邦楽関係の団体に出向き、ワークショップ参加を促していただいた。更に、他の音楽団体にも呼び掛けをしていただき、募集予定数を確保することができた。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じましたか。

地域では、市民芸術文化祭で日本舞踊、箏、尺八の発表を2年に1回開催されていますが、ホールの事業としては、昨年ロビーコンサートを1回行った程度です。今回の事業を通して、地域の邦楽団体の方々との出会いは大変良かったと実感している。今後は、邦楽団体と協議しながら身近に触れていただくミニロビーコンサートを開催していきたいと思っています。

アウトリーチ事業は、生徒や先生方から「迫力ある演奏にとっても感動」したとの感想をいただき、和楽器のすばらしさを伝えるきっかけとなったと思う。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

今回の事業において、地域の邦楽団体、学校の先生方、コーディネーターの先生方、演奏家、地域創造や各施設関係者の皆様には大変感謝しております。この事業をとおして、経験したことや学んだことを一過性で終わることなく今後の事業に活かしていきたいと思っている。

③ 地域交流プログラム報告 ②江津市

江津市担当コーディネーター

[公益財団法人せたがや文化財団 音楽事業部 楠瀬 寿賀子]

島根県での地域交流プログラムのひとつは江津市総合市民センターで実施された。なにより、同館の石原館長が全体研修会と、それにつづく現地見や打合せなどでさまざまな情報やご意見をくださり、また、手法開発研修会では4日間にわたる全行程に本事業担当の松島さんが立ち会ってくださって、曲目構成、トークの内容や立ち位置・姿勢、楽器の移動などの際の演奏家の動き方など、さまざまな場面で客観的な視点を加えていただけたことは大きい。現地に向かった際には、すべてを把握している松島さんを中心にしたスタッフのみなさんのきめ細かい対応により、演奏家は安心してアウトリーチやワークショップの実施に集中できたと思う。

また、松島さんの報告書には「先生ともっと意志の疎通をはかれよかった」とあるが、アウトリーチの実施校である桜江小学校・桜江中学校・津宮小学校すべてには、おおむね必要な情報が伝えられており、先生たちもアウトリーチの意義を理解してくださっていたと思う。子どもたちも、演奏や作品・楽器の説明などを熱心に聴いてくれた。隣接する桜江小学校と中学校では午前の小学校アウトリーチ後に、まず楽器を中学校に運んでセッティングを済ませてから、また小学校に戻って昼食をとるということにも対応してくださった。

2日目の津宮小学校の午後のアウトリーチでは開始直後に鳥取を震源とする地震があり、演奏家も子どもたちも少し驚いた様子もあったが、先生たちの落ち着いた対応をはじめ、演奏家たちも扉を開けるなど行動し、子どもたちを安心させるように見守るなど感心させられた。建物などには影響がないとの校内アナウンスを受けてあらためて最初からやり直し、無事終了した。

一方、ワークショップについては、この事業でのこれまでの内容の多くは楽器体験だと聞いた。今回の江津市の場合は箏と尺八の演奏家がこの事業に臨んだのだが、体験のワークショップでは参加者ひとりひとりが十分に楽器に触れられるかどうか、つまりそれなりの数を揃えられるかが課題となる。幸いにして尺八奏者はビニール管を利用した体験用の尺八を多数保有し、また島根県には複数の箏を県内で準備できる環境があった。そのほか邦楽の小物楽器（太鼓、木魚、おりんなど）はグラントワからお借りする算段も整った。

それらを使って、ではどんなワークショップを行うかを演奏家と相談するなかで、参加者とともに楽器の音を出しながら作品を創作するという内容はどうか、と提案したところ、3人とも積極的に同意してくれた。しかし、江津市でこのようなワークショップに興味をもてただけなのが重要であり、下見の際に楽器体験のようなワークショップとどちらが有効か石原館長にうかがってみた。こちらはまだ漠然としたイメージのみであったため、内容をうまく説明することはむずかしかったが、できるだけ楽器初心者や子どもたちも参加できるような形にしたいと考えての提案であることを伝え、承諾していただけた。

そのような漠然とした状態でちらしをつくらなければならなかったが、初心者も大歓迎の「邦楽器の“音”であそぼう」というコンセプトにぴったりのちらしを、キャッチコピーも含めて松島さんが迅速に作成し、広報は準備万端、しかし、演奏家たちはまずアウトリーチのプログラムに取り組まなければならず、実施できる形にまとめられたのは実施数日前だった。

内容を簡単に記すと、まず箏と尺八の楽器体験（通常の演奏法だけでなく自由に音を出してみる）→参加者に事前に伝えていた「江津の秋といえは？」という問いから食べ物や風物などの言葉を募る→その言葉を使って短い物語をつくる→参加者ごとに物語の各場面に合わせた音楽をつくる→つづけて演奏する練習→全員で発表（+最初と最後に演奏を聴く）、という構成となっている。

当日の参加者はこちらの思惑とは少し異なり、尺八ではご自身の楽器持参の人がほとんどで、箏には初心者や子どもが多い、という編成となったが、全員で演奏発表まで行い、それなりに楽しんでくださったように思う。演奏家たちには手応えが感じられない部分もあったようで、実際、今回は事情により2時間しか時間がとれなかったが、今後の課題としては、このような創作を行う場合はもう少し実施時間を長めにし、できれば最後に演奏を行う前に、「聴く」ということに導くワークなどを加えたプログラムで実施したいという思いをあらたにした。あとで石原館長にうかがったところ、最初は「何が起こるのかまったくわからない」と案じたが、結果としてよいものになった、と書いていただけて少しほっとしている。

③ 地域交流プログラム報告 ②江津市

江津市担当者

[公益財団法人江津市教育文化財団（江津市総合市民センター） 松島 公典]

1. 事業全体に対する所感

これまでアウトリーチ・ワークショップも邦楽事業もほとんど実施したことがなく、当初は不安もありました。しかし、時間をかけて丁寧に作り上げていくこの事業を通して貴重な経験をさせていただき、ノウハウも学ぶことが出来たと思います。後から感じた反省点としては学校との意志の疎通をもっと上手くすれば良かったと思っています。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦勞した点

最初に心配したのは地域交流プログラムの日程を決めることでした。江津市では3校でアウトリーチを行いました。学校と私どもで10月、11月にアウトリーチ・ワークショップの実施が可能な日を調整したところ、10月20日～22日しかなかったため、この日程に決まるまでは心配しました。

次に心配だったのはワークショップの楽器の調達と参加者の募集についてです。箏や尺八が複数必要になりますが、最初はそれを何処から借りればよいのか分かりませんでした。また、参加者募集に関しては、「邦楽」のワークショップにどの程度の応募があるのかが全く分からず心配でした。

3. 苦勞したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

地域交流プログラムの日程は対象団体であるグラントワの担当者に実施可能日がこの日しかないことを説明し、希望通りの日程に決めていただきました。

ワークショップの楽器については、箏は浜田教育センターが学校への貸出用として持っておられたのでそれをお借りしました。また、演奏家の川村葵山氏から塩ビパイプで作成した練習用尺八を、グラントワから太鼓・木魚等の打楽器をお借りすることで数を揃えることができました。

参加者募集についてはチラシを新聞折込みするとともに小中学校の全生徒にも配布しました。募集を始めると小学生親子や年配の方などに加え、本事業の浜田市のワークショップに参加される方々の応募があり、無事に定員に達することができました。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

子どもたちが熱心に演奏を聴いている姿が印象に残りました。演奏家の言葉や思いが子供たちに届いているのが伝わりました。また、日頃馴染みのない邦楽器の生の演奏を届けることが出来たのも良かったと思います。先生方からも「子どもたちが引き込まれて聴いている姿が印象的でした。」「一流の演奏家の素晴らしい演奏を間近で見ることができ、子どもたちにとってはとても良い刺激を受けていました。」との感想があり、良かったと思います。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

先生方との打ち合わせの時にも「子どもたちに楽器に触れさせたい」とのお話があり、また子どもたちのアンケートを見ると「楽器を演奏してみたくなった」という意見が結構ありましたので、今後は体験するアウトリーチを行ってみてもよいと思いました。

最初に述べましたが、私どもはこれまでアウトリーチ・ワークショップも邦楽事業もほとんど実施したことがなく、今回の邦楽地域活性化事業がスタートラインだと思っています。この事業で得た経験を今後の事業にも生かしていければと思います。

③ 地域交流プログラム報告 ③益田市

益田市担当コーディネーター

[公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演芸術振興部企画室長 谷垣内 和子]

島根県の西端、日本海にそそぐ高津川下流を中心に広がる益田市は、赤褐色の石州瓦の家並みが美しい街だ。ホームグラウンドのグラントワは、美術館と劇場とが一体となったユニークな施設で、2009年に本事業を初めてモデル実施した思い出深い館でもある。陽光に映える壁瓦の色合い、中庭の水面に映る建物の佇まい。旧知のスタッフも在職していて、変わらぬ姿で私たちを迎えてくれた。

メンバーは三人とも東京芸術大学の卒業生で山田流箏曲を専門とする。樋口さんは慎重ななかにもリーダーとしての自覚が高く、経験豊富。しっかり者で分析能力の高い三橋さん。一番年下の森田さんは明るく、子どもたちとすぐ仲良くなる。個性を活かしたチームワークの良さが魅力的なプログラムを生んだ。

江戸で発達した山田流は箏による浄瑠璃と評され、関西を中心とする生田流とともに箏曲の二大流派として知られる。標準的な楽器編成は箏二面と三絃一挺。成熟した江戸文化を背景に高い文学性を持ち、ドラマティックな声の表現を重視する音楽であるせいか、現代人には受け入れにくい側面があるのも確かだ。この壁をどうやったら乗り越えることができるのか。今までの取り組みでも常に課題となってきた。

今回取り上げたのは、琵琶湖に浮かぶ竹生島への参詣と奇瑞を描いた山田流箏曲「竹生島」。途中で登場人物が「変身」するシーンもある。巨大な歌詞カードに紙芝居、役柄を明確にするための小道具類を工夫。配役に応じて歌う部分を決めてキャラクターを鮮明にする一方、子どもたちが一緒に歌う場面も設けた。道具立てに必要な箱馬や平台、譜面台等はグラントワから持ち込んだ。関係者の知恵と協力のお蔭で、とても内容の濃いプログラムを提供できたと思う。けれども、今後、このプログラムを標準化して行くためには、学校備品だけでも実施できる方法を検討すべきだろう。

声は人それぞれに異なり、どれも素晴らしい。一人ひとりの声を聴かせる一方で、時として全員で歌うことによって音量にも変化をつける。マイクのない時代から用いられてきたやり方だ。互いの気配を察知しながら「息」を合わせるものが基本となる。今回のプログラムを通じて、個性の尊重と協働することの大切さも伝えることができたのではなかろうか。

ワークショップはグラントワのステージを用い、いろいろなキャラクターが登場する「七福神」を取り上げた。子どもを中心に親子でも参加可能とし、七福神のイラストやグラントワのキャラクターを活用した親しみやすいチラシが早々に出来上がった。山田流の箏爪の確保が悩ましかったが、都内の箏屋さんからの借用と演奏家の手持ちで対応し、事なきを得た。しかし、こうした体験では小物の調達がネックとなるケースが少なくない。

プロジェクターを活用して手元をクローズアップする手法と指導者用ピンマイクは、今や定番となった。箏の弦名は、譜尺でなく主要な弦にカラーシールを貼って示したが、もう少し工夫の余地がありそうだ。また、箏を弾きながら歌う体験は、演奏家たちの強い思いに比して、なかなか結果につながりにくい。教材や指導プランをさらに練り上げる必要がある。それでも、ステージ上で客席を向いて楽器に触れる時間は、劇場体験としても効果的であり、参加者の興味を刺激することになるのは確かだ。

今回のプログラムでは、地域の文化拠点として揺るぎない地位を確立しているグラントワの経験の豊富さ、スタッフの方々の温かくきめ細やかなサポートと連携の見事さが際立った。時を経て、人も施設も着実にキャリアを重ねてきたことを実証する取り組みとなったことに、敬意を表すとともに感謝を申し上げたい。

同館では、毎年「キッズ邦楽塾」を実施していると聞く。小さな経験を地道に積み重ねることが、裾野の拡大に通じる道であることはいままでもない。今回の取り組みが館独自の事業とつながり、地域での邦楽事業の発展に資することを確信している。

③ 地域交流プログラム報告 ③益田市

益田市担当者

[公益財団法人しまね文化振興財団（いわみ芸術劇場） 田中 純恵]

1. 事業全体に対する所感

樋口さん、三橋さん、森田さんの演奏を初めて聴いた時に「山田流箏曲ってカッコいい！！」と感動したことを今でも鮮明に覚えています。皆さんの凛とした力強い演奏と歌に引き込まれました。そうして最初に皆さんのファンになったこともあり、本当に楽しんで事業に携わらせていただきました。

アウトリーチプログラムを創りあげる手法開発研修会では、プロの演奏家の皆さんが切磋琢磨しながら真剣に取り組む姿やプログラムがブラッシュアップされていく過程をみることができ、大変貴重な体験となりました。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

この項目に何と答えればよいのだろう…と悩むくらい地域プログラムでの苦労はありませんでした。経験豊富な谷垣内コーディネーターと演奏家の皆さんのアイデアに毎回驚かされ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

ただ、益田チームは「竹生島」の歌詞や紙芝居などアウトリーチで使用する備品が多く、その貼り出し位置や高さなども細かく決まっていたため、各実施校でどの程度舞台が再現できるのかが心配でした。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

アウトリーチを実施する学校の担当の先生にモデルアウトリーチの時の舞台写真を見ていただいて、なるべく同じ条件で実施出来るよう協力を仰ぎました。劇場からも平台と箱馬を持ち込み、どうにか舞台を再現することができました。今回は学校に足りないものは劇場から持ち込むという方法をとりましたが、今後このアウトリーチプログラムを各地で続けていくためには、学校で用意出来る備品で対応出来るように工夫する必要があると感じました。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

今回のアウトリーチプログラムでは、児童が歌で参加する場面がありました。姿勢を正して楽しそうに歌う姿に演奏家の皆さんと子ども達の気持ちが通じ合う瞬間を見た気がします。

ワークショップにおいては、20名の定員を大きく超える28名の方にお申込みをいただきました。いわみ芸術劇場では、毎年小中学生向けのキッズ邦楽塾を開催していますが、今回のワークショップ開催にあたり子ども達からの応募が多くあったことは、これまで継続して開催してきた邦楽塾の成果を物語るものであり、すぐに成果として現われなくても続けていくことの大切さを学ぶ機会にもなりました。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

今年度、小中学生向けのキッズ邦楽塾は12月から始まります。箏コースへは16名の応募があり、うち5名は本事業のワークショップに参加してくれた子どもたちでした。こうして少しずつ邦楽に興味を持つ子ども達が増えていくことを本当に嬉しく思います。

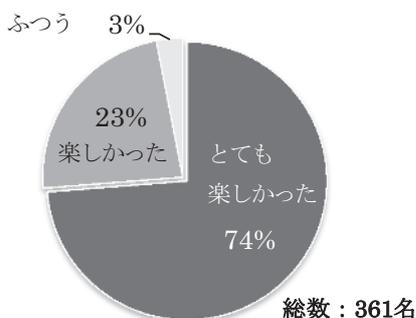
「邦楽」は敷居が高く、遠い存在だと感じている方は多いと思います。今後もアウトリーチやワークショップを通じて邦楽を身近に感じいただき楽しんでいただけるよう、浜田市・江津市のホールと協力しながら事業を展開していきたいと思っております。

4 参加者の声 ①地域交流プログラム

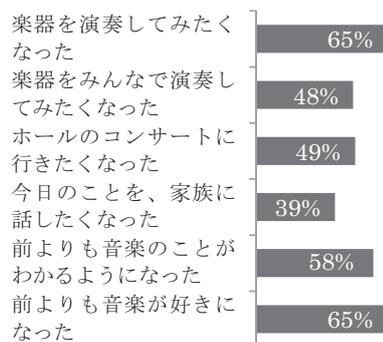
1. アウトリーチプログラム

〈生徒の感想〉

(1) コンサートはいかがでしたか？

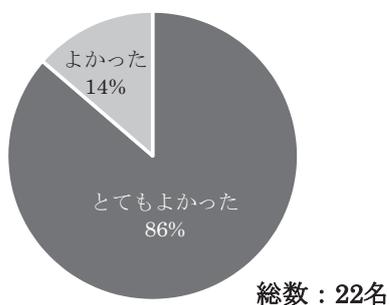


(2) 今日の演奏をきいてやりたくなったことや感じたことはありますか？(複数回答)



〈先生の感想〉

(1) 今日のアウトリーチコンサートに対する子どもたちの反応はいかがでしたか？



(2) 子どもたちが、授業や学校行事の中で、プロの演奏を生で聴く機会は、この1年間にありましたか。



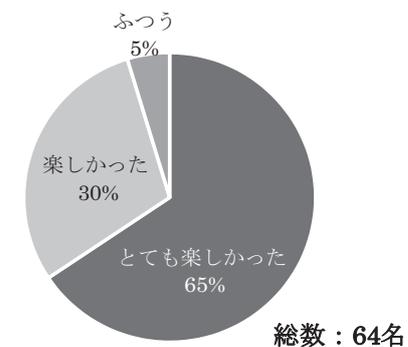
(3) 今日のようなアウトリーチの機会があれば、また取り組みたいですか？



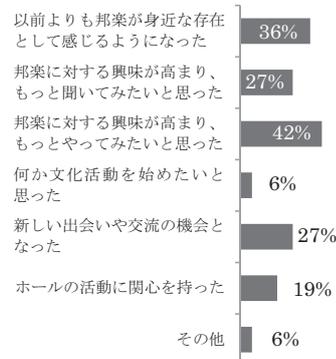
2. ホールプログラム

〈参加者の感想〉

(1) 本日のワークショップについてご感想をお聞かせください。



(2) 本日のワークショップに参加して、どのように感じになりましたか？(複数回答)



1. アウトリーチプログラム

<生徒の感想>

○浜田市

- ・家にお母さんが習っていた時の箏があるのでまた弾いてみたい。琵琶や尺八を初めて見たり聴いたりしてこんな音が出るんだと初めて知った。
- ・楽器は人の人生を左右するということがわかった。
- ・特にすごいと思ったことは演奏のストーリーや表現がすごく伝わってきたことです。オーケストラのようにたくさんの楽器があるわけではないのにすごいと思いました。ぜひまた演奏を聴きたいです。
- ・私は箏を一回学校で演奏したことがあって「あ！前にやったことある！」と感じていました。でも三味線と尺八は見たこともなく初めてだったので日本にはこんなすてきな楽器もあるんだなと感じました。
- ・尺八は竹に穴をあけただけの楽器だけどあんなに色々な音を出せることにびっくりしました。息を調節するだけであんなに音が変わるなんて思ってもいませんでした。日本にはとてもすてきな楽器があるからもっと日本の楽器について知りたいと思いました。
- ・お琴の演奏の音色がすごくきれいで感動しながら聴いていました。尺八の音色が神楽の笛の音とそっくりでびっくりしました。今日のような演奏は初めて聴いたので迫力があってすごかったです。
- ・3人とも和楽器が好きなんだなと思いました。3人のようにいつ、どんなときに何があるか分からないと思いました。とても楽しかったし、勉強になりました。
- ・尺八はどうして竹を切って穴をあけただけなのに音が出るのか不思議。
- ・最近自分の好きな音色しか聴いていなかったのに和楽器の独特な響きは刺激的でおもしろかったです。
- ・3人とも楽器が体の一部になったように体を使って演奏していてすごいなと思いました。日本の楽器はいつも目にする楽器よりもシンプルだけど色々な音色があって面白いなと思った。

○江津市

- ・尺八があごを動かして演奏するというのがびっくりしました。穴が五個しかないのに音が五個以上出るのでびっくりしました。十七弦は音が低いけれどとてもすてきなあとと思いました。三味線は音色がとても好きになりました。箏は爪につけるものが象の牙を使っているときいてびっくりしました。
- ・楽器で風とかの虫の音ができることが一番印象に残りました。三味線をしてみたいなあとと思います。
- ・お琴と三味線、尺八などでやってもらった演奏の表現が豊かだったなあとと思いました。生で聴いて、テレビで聴くのは迫力が違うなあとと思いました。とてもすごく感動しました。
- ・虫の鳴き声や風の吹き方などを表現するのがすごく上手でした。
- ・前に箏を見たことがあったけど、演奏は見たことがなかったのですごく感動しました。3人の楽器がそろった所もすごくきれいでよかったです。
- ・ほんものを見たときに迫力はテレビと違ってすごく頭に残っていてすごくきれいな音色でした。
- ・尺八がフルートとそっくりですごく吹いてみたくなって吹くことができよかったです。自然の生き物などを使って和楽器はできているんだと思いました。

○益田市

- ・歌と箏と三味線が重なり合うことでさらにいい音楽になることがわかりました。竹生島で箏の音色と三味線の音色と歌をうたっている時の声がきれいでした。
- ・箏、三味線を聴いてすごく落ち着いたし、音がきれいでびっくりして、3人の方と共演できたのでうれしかったです。
- ・ドラマで三味線や箏を聴いたことはあったけど、生で聴いたらそれ以上にきれいだったので聴けてうれしかったです。
- ・箏、三味線、歌の一つのものだけでやるより、全部を合わせてひとつひとつの個性を出した方が良かったことがわかった。
- ・箏や三味線が見られて楽しかったです。箏で波の音、虫の音、風の音があるのを初めて知りました。ど

んな音でもきれいな音でした。三味線もいろいろな弾き方があっておもしろかったです。

- ・ 箏を弾くときに爪が四角の形ではなく、竜の爪のようなのでひいていたのが不思議だった。
- ・ すごく楽しかったです。なんだかどきどきしました。音楽がもっと好きになれたし、すごくハッピーな気分になりました。うれしかったです。

<先生の感想>

- ・ 和楽器に触れる機会が少ないのでとても新鮮に感じられました。生徒も「初めて知ることが多かった」などとても良い経験になったようです。
- ・ あの距離でプロの演奏家の生演奏を聴くというのは生徒にとって衝撃だったと思います。普段聴き慣れない和楽器ですが、すごい感動を与えたようです。カバー曲でなく本物で勝負したこともよかったと思います。
- ・ 「和楽器との出会い」では、プロの演奏家になるまでを語ってもらい、本校で推進しているキャリア教育との関連を図ることができ、「よくぞ！話してもらった！」という思いを持ちました。
- ・ 浜田一中での二日間を通して3人の演奏家の皆様の、石田さんを中心としたチームワークの良さ、いいものを伝えようという様子や意気込み、そしてここまでの準備に費やした大変な労力等々感じられました。
- ・ 邦楽は自然の素材を使い、自然を表現しているという説明と選曲がよくあって、子供たちにもわかりやすく自分自身も認識を新たにしました。
- ・ 邦楽はのどかで優雅なイメージをもっていました。力強い奏法や迫力のある音は心にも体にも響きました。子供たちも引き込まれて聴いている姿が印象的でした。
- ・ プロの方の演奏はもちろん、直接お話ししていただく機会があるのはとてもありがたいと思った。ちょっととっつきにくいかな？というものでも、子供たちにわかるようにしていただき、よかったです。
- ・ 子供たちが参加できるような場面もあり、子供が飽きずに活動できた。演奏はとても素晴らしく本物はやはり素晴らしいと思いました。
- ・ すぐ目の前でプロの演奏を聴かせていただき、子供たちと共にとっても感動しました。ほんとにすぐ目の前で息づかきまではっきりきこえ、演奏が始まると空気がぱっとかわるのを子供たちは全身で感じたと思います。とても良い機会をいただきました。
- ・ やはり本物には力があると感じた。普段あまり目にしたり耳にしたりしないであろう和楽器をとっても身近に感じられるよい経験となった。このような機会があれば是非希望したい。子供たちもとても楽しみにしていたし、終わった後はそれを上回る満足感をもっていた。

2. ホールプログラム

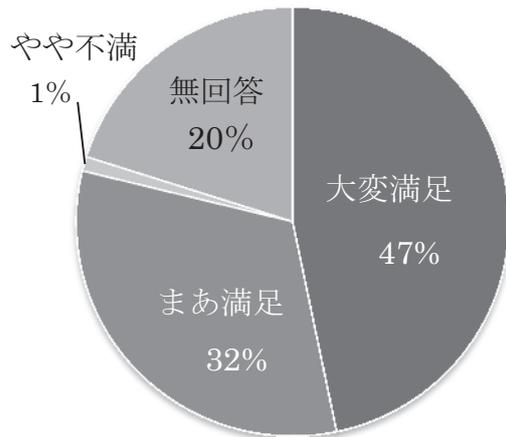
<参加者の感想>

- ・ 基本をおろそかにしがちだがこれからは今日教えられたことを肝に銘じて練習を続けたいと思いました。
- ・ お箏がベースのような感じで又、力強い演奏でとても驚きました。子供たちがとても興味を持ってくれたのでとてもうれしいです。
- ・ 城下町として和の文化も活性していくと素晴らしいと思いました。和の暮らし大好き人間ですから。
- ・ 自分たちで曲を作っていくというのはとても楽しかったです。普段から物事や感情を音に表してみるのもいいかなと思いました。
- ・ 尺八で参加させていただきました。最後まで音が出なかったのが残念でしたが楽しかったです。
- ・ 楽譜なしで自分なりに表現するという何か新鮮さを感じられました。
- ・ 楽しかったです。箏のいろいろなことが分かりました。

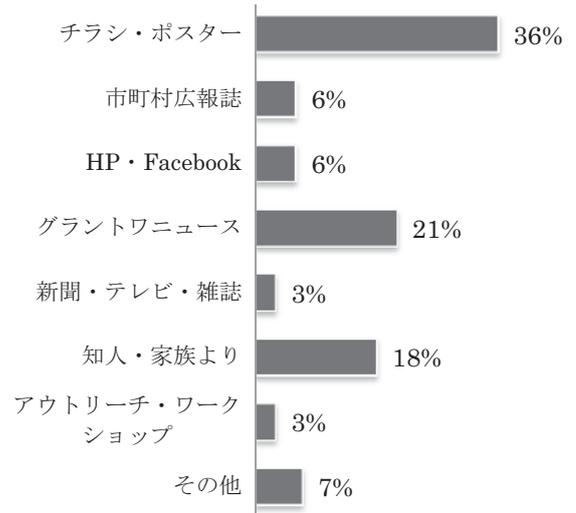
4 参加者の声 ②総括公演プログラム

回答者数 184名

(1) 公演内容の満足度についてお伺いします。

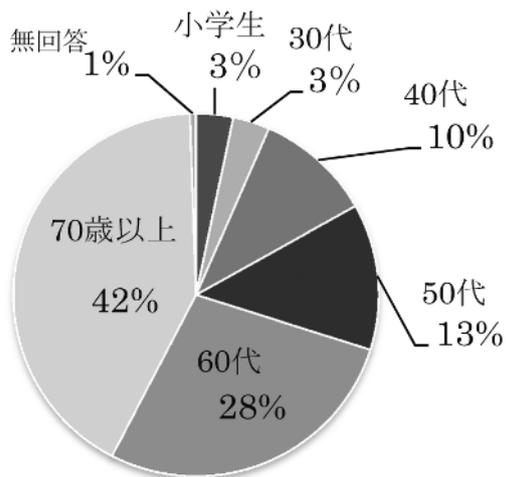


(2) 本日の公演を知ったきっかけは何ですか？（複数回答）

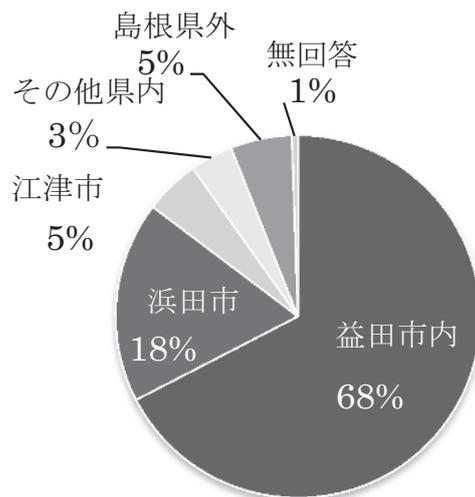


(3) 来場者内訳

① 年齢



② 居住地



(4) 感想 (抜粋)

- ・日々、バタバタ過ごし、久しぶりにゆっくりした贅沢な時間を過ごさせていただきました。若い人達が伝承されて嬉しいです。日本文化を忘れそうな日々、心洗われる演奏でした。合同演奏はよく聞かせてもらうけど、こういうプロの方の演奏も又素晴らしかったです。
- ・今までは全て洋楽器と合唱の組み合わせだった。今回は和楽器とても心地よい時間の流れだった。
- ・琵琶の音色を初めて自らの耳できき嬉しかった。
- ・二十五絃が良かったです。
- ・和楽器の落ち着いた穏やかな音色がとても心に響きました。「胡桃の森で」はとてもかわいらしく、今までに思っていた和楽器の印象とは違ったもので、また別の面白さを感じました。合同演奏、和楽器と合唱とが、こんなに素敵に合わさるものなのだと感動しました。とても素敵でした。ありがとうございました。
- ・とても素敵な公演でした。これからも地域の活性化のためさまざまな公演をお願い致します。
- ・大変美しい音色聞かせていただき、心が洗われました。ありがとうございました。
- ・初めて琵琶の音をきいて感性が磨かれるような、プロはやはりすごいですね。素敵でした。川柳をしています、一句詠めそうです。
- ・それぞれの演奏（楽器）に趣があり、聞き入ってしまうほど素晴らしい。二十五絃演奏、ハーブを感じさせるような演奏だった。それぞれの調和のとれた情景を感じる演奏です。ありがとうございました。
- ・アウトリーチでお世話になりました。邦楽との出会いとても新鮮でした。これからも聴いてみたいと思います。ありがとうございました。
- ・邦楽の美しさを感じました。琵琶は、初めて生で聴きました。唄いも美しく、合唱（声楽）と違う発声なのに、よく響いているのに、驚きました。
- ・邦楽は物静かなものと思っていましたが、今日のコンサートでダイナミックな演目があるのを知りました。本物の琵琶演奏を初めて聴きました。大変良かったです。
- ・本物を聞かせていただき、ありがとうございました。地方において本物と触れ合う機会が少ないので、これからもあらゆる分野で機会を作ってください。
- ・邦楽のコンサートは初めてだったが、日本の楽器のよさをしみじみ感じました。良かったです。
- ・なかなか邦楽（プロの）演奏を聴く機会がないので、今日はとてもいい機会に恵まれました。古典、新曲をいろんな作曲者の曲が聴けてとても楽しめました。
- ・邦楽を大事にしたいと思いました。本日のチラシを見て音楽全般の活性化を強く願いました。
- ・久しぶりにこんな素晴らしい邦楽を聞かせて頂いて感動しました。特に「胡桃の森で」は素敵でした。琴と尺八の音色が本当に森にいて心洗われた気分です。
- ・はじめてこのようなコンサートにきました。今まで遠い存在だった邦楽ですが、少し興味をもつことができました。ありがとうございます。
- ・山田流の唄に惹きつけられた。
- ・尺八の音に癒されました。琵琶もはじめてですが、語りと相まって素敵でした。
- ・選曲は一般的でないマニア向けのもので聴き応えがありました。
- ・幕間で演奏者の司会や活動の様子を話されたことは良かった。
- ・伝統ある邦楽公演は大変良いと思います。再公演を望みます。

IV. 平成28年度 事業資料

【平成28年度邦楽地域活性化事業 総括公演 チラシ表面】



石田 英希美



高橋 理恵子



田野村 聡



日原 暢子



川村 菜山



浅野 祐子



黒口 千清代



三橋 乙女



森田 博代

邦楽ガラコンサート

平成28年 12月11日[日]

開場13時30分／開演14時

島根県芸術文化センター「グラントワ」大ホール

入場料 (全席自由・税込) 一般 / 1,000円 友の会会員 / 800円 高校生以下 / 500円 (前売当日同料金)

島根県芸術文化センター
SHIMANE ARTS CENTER
島根県立いわみ芸術劇場
IWAMI ARTS THEATER

グラントワ Grand Toit

平成28年度 邦楽地域活性化事業総括演奏会



チケット発売日
2016年10月9日(日)

チケットのご予約
島根県芸術文化センター「グラントワ」
総案内カウンター TEL: 0856-31-1871

プレイガイド
【益 田 市】島根県芸術文化センター「グラントワ」(富内オ
リエント商店本店・旧益田駅前店/サウンドパレット/ブックセン
ターゲスト高津店
【浜 田 市】石中央ホール/みずは楽器
【江 津 市】江津市総合市民センター/江津クリーンモール
【津和野町】日原山村開発センター 【吉賀町】カサヤ書店

◎未就学のお子様のご入場はご遠慮願います。
◎当日無料駐車場サービスがございます。
◎希望の方は12月4日までに申し込みください。

演奏曲
さらし幻想曲…………… 中能豊代 作曲
竹生島…………… 千代田検校 作曲
仲秋詩抄…………… 牧野由多可 作曲

出演者全員による合同演奏曲
星の美しい村
…………… 鈴木敬史 作詞 寺崎隆也 作曲
賛助出演: グラントワ・ユース・コール

他

公演に関するお問合せ・申し込み
島根県芸術文化センター「グラントワ」
TEL: 0856-31-1860
<http://www.grandtoit.jp/>

主催: 公益財団法人しまね文化振興財団(いわみ芸術劇
場)、公益財団法人浜田市教育文化振興事業団、石
中央ホール、公益財団法人江津市教育文化財
団(江津市総合市民センター)
共催: 一般財団法人地域創造
後援: 益田市・益田市教育委員会・芸術文化とふれあう盛
議会

【平成28年度邦楽地域活性化事業 総括公演 チラシ裏面】

今年度、グラントワ（いわみ芸術劇場）は石央文化ホール、江津市総合市民センターと協同で「邦楽地域活性化事業」に取り組んできました。これは、地域の公共施設を活性化すること、そして日本の伝統音楽の素晴らしさを地域の子どもたちや人々に体験してもらい伝えることを目的に実施するものです。

9月から10月にかけて、第一線で活躍する若手邦楽演奏家9名が益田市・浜田市・江津市の小中学校やそれぞれのホールでアウトリーチやワークショップを行いました。

ガラコンサートは、この「邦楽地域活性化事業」の最後を締めくくる総括演奏会です。響きあう和の調べをお楽しみください。

プロフィール

石田 真奈美 いしだ まなみ
〔代表者〕生田流箏曲

千葉県出身。幼少より箏の手ほどきを祖母に受け、のちに深海さとみ氏に師事。2006年東京芸術大学卒業。卒業時にアカンサス音楽賞を受賞。皇居桃華楽堂にて御前演奏をつとめる。2010年第16回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞。2013年第20回賢順記念全国箏曲コンクール銅賞。千葉県文化振興財団主催「第28回 若い芽のαコンサート」にて、ソリストとしてニューフィルハーモニーオーケストラ千葉と共演。NHKテレビ・ラジオ出演。深海さとみCD「二曲一雙」、煌★バンドCD「和楽器 DE MUSIC FOUNTAIN」、スマホアプリiOS版「戦国X(クロス)」レコーディング参加。(公社)日本三曲協会・宮城会・森の会・深海邦楽会各会員、和楽器オーケストラあおいわい和楽団「煌」等七星各メンバー。

日原 暢子 ひはら しょうこ
〔代表者〕生田流箏曲

岐阜県出身。幼少より三浦維甫に手ほどきを受けた後、岩田柔柯に師事。東京芸術大学邦楽科卒業に際し、アカンサス音楽賞及び同声会賞受賞。宮内庁皇居桃華楽堂にて御前演奏。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。桐朋学園芸術短期大学日本音楽専攻専攻科及び研究生修了。東京芸術大学邦楽科教育研究助手を経て、文化庁新進芸術家育成事業研修生として研鑽を積む。野坂操壽、深海さとみ、各氏に師事。第18回賢順記念全国箏曲コンクールにて銀賞及び福岡県知事賞。愛知芸術文化協会ANET新人賞。岐阜市芸術文化奨励賞。各地でのリサイタルやソロコンサートの他、スーパー歌舞伎やNHKにほんごであそぼ」等の録音参加。NHKラジオ「邦楽のひととき」出演。CM出演。現在、芙蓉会、同声会、森の会、(公社)日本三曲協会、4plus、アンサンブル室町に所属。古典の際は藤花維柯として演奏活動を行う。

樋口 千清代 ひぐち ちせよ
〔代表者〕山田流箏曲

東京都生まれ。高柳照子に山田流箏曲の手ほどきを受け、1998年「千清代」の名を許される。2003年 東京芸術大学音楽学部邦楽科を卒業。安宅賞・アカンサス音楽賞並びに同声会新人賞を受賞し新人演奏会に出演。2005年 同大学大学院音楽研究科修士課程修了。国際交流基金の派遣によりオーストラリアに公演。2009年 同大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。山田流箏曲専攻では初の博士号を取得。在学中は萩岡松韻、増淵任一郎、山勢松韻らに師事。2010年度文化庁新進芸術家育成事業研修員として山田流箏曲を萩岡松韻、河東節三味線を山原貞波の各氏に師事し研修。国内外で演奏活動をする傍ら、小中学校での公演にも力を注いでいる。(公社)日本三曲協会・山田流箏曲協会・箏曲新潮会各会員。邦楽ぐるーぷ翔の会・和楽器オーケストラあおいわい千代見会所属。誌誌カルチャー大宮校、豊島区後援子供邦楽合奏団「音輪会」講師。

藤高 理恵子 ふじたか りえこ
筑前琵琶

神奈川県逗子市出身。筑前琵琶を田原順子氏に師事。古典弾き語りや現代邦楽の演奏活動を行うと共に、現代語によるオリジナル作品の創作にも力を注いでいる。小さな会場でのソロライブから学校公演、他楽器とのアンサンブル演奏など幅広く活動。また芝居や無声映画の伴奏、書道・茶道・生け花など他ジャンルとのコラボレーションも行う。第5回東京邦楽コンクールにて日本現代音楽協会賞受賞。第15回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクールにて優秀賞受賞。日本音楽集団の団員として国内各地および海外での公演に参加。国立劇場の現代邦楽公演やNHKの邦楽番組に出演。馴染みが薄く堅苦しいイメージを持たれがちな琵琶を、気軽に楽しく聴いてもらいたいと思い活動している。

川村 葵山 かむむら きざん
都山流尺八

東京都出身。東洋大学卒。NHK邦楽技能者育成会第51期修了。尺八を父、川村泰山に師事。都山流尺八楽会准師範試験、師範試験共に首席合格。国際交流基金派遣等によりロシア、アメリカで演奏。NHKオーディション合格、NHKラジオ「邦楽のひととき」出演。第15回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクールにて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞受賞。NHK教育テレビ「芸能花舞台」出演。第36回、第38回都山流全国本曲コンクールにて共に金賞受賞。現在、都山流師範、講師補。(公財)都山流尺八楽会、泰山会、和楽器のオーケストラ「むつのを」、尺八四重奏団「破竹」等に所属。

三橋 乙勢 みつはし おとせ
山田流箏曲

千葉県出身。幼少より祖母の本多波津井より山田流箏曲の手ほどきを受ける。人間国宝山勢松韻に師事。東京芸術大学音楽学部邦楽科を卒業。在学中は増淵任一郎、岸辺美千賀らに師事。2008年・2009年新春歌舞伎公演に出演。俳優座の女優田野 聖子ひとり芝居「花いちもんめ」、朝丘雪路主演「花や蝶や」、代官山コレクションファッションショー音楽出演。Shing02+CRADLE ORCHESTRA CDレコーディング参加。その他、演奏活動、学校教育鑑賞会など多数出演中。(公社)日本三曲協会・山田流箏曲協会・箏曲新潮会各会員、箏曲波津井会副主宰。

田野村 聡 たのむら そう
琴古流尺八

岡山県出身。島根大学総合理工学部卒業。少年期よりギター、電子音楽制作、DJ等の多様な音楽遍歴を経た後、祖父の形見である楽器を手に18歳より尺八を始める。琴古流尺八を寛秀月氏、現代邦楽を田辺潤山氏、田辺頌山氏に師事。上京以後、菅原久仁義氏に師事。NHK邦楽技能者育成会第51期修了。日本音楽集団団員。第17回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞(尺八・尺八音楽の部1位)。世界各地での演奏活動の一方、著名アーティストとの共演やTV出演、CM/ゲーム音楽のレコーディング参加多数。独学による作曲活動も展開し、和楽器によるゲーム音楽ユニット「ファミ等」では編曲を担当。幅広い音楽的背景・感性を武器に尺八の表現における新たな可能性を追求している。

渡部 祐子 わたべ ゆうこ
生田流箏曲

熊本県出身。6歳より坂田和歌子氏に箏・三絃の手ほどきを受け、後に山川玉枝、声垣美穂の各氏に師事。東京芸術大学邦楽科卒業。東海大学大学院修了。第14回賢順記念全国箏曲コンクールにて賢順賞受賞。伝統楽器の可能性や魅力を伝えるため、ライブや訪問演奏、学校公演を行い、また和楽器オーケストラメンバーとして日本各地で演奏会に出演。2013年度より宮崎県高等学校総合文化祭にて審査員を務める。中学、高校、大学での指導にも力を入れている。宮崎大学教育文化学部非常勤講師。NHK教育テレビ「芸能花舞台」、NHK WORLD「Blends」、日本テレビ「ネブ&イモトの世界番付」などにも出演。

森田 博代 もりた ひろよ
山田流箏曲

東京都出身。9歳より箏曲を始め、15歳より大同隆之に師事。東京芸術大学大学院修了。在学中は、萩岡松韻、岸辺美千賀、井口法能、宮下秀列、鈴木厚一の各氏に師事。2009年、皇居桃華楽堂にて御前演奏。大学院修了後は、都立高校、島村楽器ミュージックサロン、東京・文化プロジェクト「キッズ伝統芸能体験」などの講師を務め、文化庁主催「文化芸術による子供の育成事業」の巡回公演事業に参加(山梨公演、福島公演、長崎公演)するなど、幅広く演奏活動をしている。(公社)日本三曲協会・山田流箏曲協会・箏曲新潮会、箏楽会、和楽器オーケストラあおいわいに所属。

公演に関するお問合せ：島根県芸術文化センター「グラントワ」 0856-31-1860 <http://www.grandtoit.jp/>

【平成28年度邦楽地域活性化事業 総括公演 パンフレットP1】



平成28年度 邦楽地域活性化事業総括演奏会

邦楽ガラコンサート

平成28年 12月11日〔日〕

開場13時30分／開演14時
島根県芸術文化センター「グラントワ」大ホール

島根県芸術文化センター
SHIMANE ARTS CENTER
島根県立いわみ芸術劇場
IWAMI ARTS THEATER
グラントワ Grand Toit

主催：公益財団法人しまね文化振興財団(いわみ芸術劇場)・
公益財団法人浜田市教育文化振興事業団(石見文化
ホール)・公益財団法人江津市教育文化財団(江津市総
合市民センター)
支援：一般財団法人地域創造
後援：益田市・益田市教育委員会・芸術文化とふれあう協議会

【平成28年度邦楽地域活性化事業 総括公演 パンフレットP4】

プロフィール



石田 真奈美 いしだ まなみ
[代表者] 生田流箏曲

千葉県出身。幼少より箏の手ほどきを祖母に受け、のちに深海さとみ氏に師事。2006年東京芸術大学卒業。卒業時にアカンサス音楽賞を受賞。皇居桃華楽堂にて御前演奏をつとめる。2010年第16回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞。2013年第20回賢順記念全国邦楽コンクール銅賞。千葉県文化振興財団主催「第28回 若い芽のコンサート」にて、ソリストとしてニューフィルハーモニーオーケストラ千葉と共演。NHKテレビラジオ出演。深海さとみCD「二曲一雙」、CD「バンコク」和楽器 DE MUSIC FOUNTAIN」、スマホアプリ「iOS版」韓国X(クロス)プロジェクト参加。(公社)日本三曲協会・宮城会・森の会・深海邦楽会各会員、和楽器オーケストラあゐい・和楽団「煌」等七星各メンバー。



藤高 理恵子 ふじたか りえこ
筑前琵琶

神奈川県逗子市出身。筑前琵琶を田原順子氏に師事。古典弾き語りや現代邦楽の演奏活動を行うと共に、現代語によるオリジナル作品の創作にも力を注いでいる。小さな会場でのソロライブから学校公演、他楽器とのアンサンブル演奏など幅広く活動。また芝居や無声映画の伴奏、書道・茶道・生け花などジャンルとのコラボレーションも行う。第5回東京邦楽コンクールにて日本現代音楽協会賞受賞。第15回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクールにて優秀賞受賞。日本音楽集団の団員として国内各地および海外での公演に参加。国立劇場の現代邦楽公演やNHKの邦楽番組に出演。馴染みが薄く堅苦しいイメージを持たれがちな琵琶を、気軽に楽しく聴いてもらいたいという活動している。



田野村 聡 たのむら そう
琴古流尺八

岡山県出身。島根大学総合理工学部卒業。少年期よりギター、電子音楽制作、DJ等の多様な音楽遍歴を経た後、祖父の形見である楽器を手に18歳より尺八を始める。琴古流尺八を寛秀月氏、現代邦楽を田辺列山氏、田辺朝山氏に師事。上京以後、菅原久仁義氏に師事。NHK邦楽技能者有成会第51期修了。日本音楽集団団員。第17回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞(笛・尺八音楽の部1位)。世界各地での演奏活動の一方、著名アーティストとの共演やTV出演、CM/ゲーム音楽のレコーディング参加多数。独学による作曲活動も展開し、和楽器によるゲーム音楽ユニット「ファミマ」では編曲を担当。幅広い音楽的背景・感性を武器に尺八の表現における新たな可能性を追求している。



日原 暢子 ひほら しょうこ
[代表者] 生田流箏曲

岐阜県出身。幼少より三浦雅甫に手ほどきを受けた後、若田柔柯に師事。東京芸術大学邦楽科卒業に際し、アカンサス音楽賞及び同声会賞を受賞。宮内庁皇居桃華楽堂にて御前演奏。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修専攻及び研究生修了。東京芸術大学邦楽科教育研究助手を経て、文化庁新進芸術家育成事業研修生として研鑽を積む。野坂操壽、深海さとみ、各氏に師事。第18回賢順記念全国邦楽コンクールにて銀賞及び福岡県知事賞。愛知芸術文化協会ANET新人賞。岐阜市芸術文化奨励賞。各地でのリサイタルやソロコンサートの他、スーパー歌舞伎や「NHKにほんごであそび」等の録音参加。NHKラジオ「邦楽のひととき」出演。CM出演。現在、美善会、同声会、森の会、(公社)日本三曲協会、4plus、アンサンブル室明に所属。古典の際は露花雅和として演奏活動を行う。



川村 葵山 かむむら きざん
都山流尺八

東京都出身。東洋大学卒。NHK邦楽技能者有成会第51期修了。尺八を父、川村泰山に師事。都山流尺八会会准師範試験、師範試験共に首席合格。国際交流基金派遣等によりロシア、アメリカで演奏。NHKオーディション合格、NHKラジオ「邦楽のひととき」出演。第15回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクールにて最優秀賞、文部科学大臣奨励賞受賞。NHK教育テレビ「芸能花舞台」出演。第36回、第38回都山流全国本曲コンクールにて共に金賞受賞。現在、都山流師範、講師補。(公財)都山流尺八会会、泰山会、和楽器のオーケストラ「むつ」を、尺八四重奏団「破竹」等に所属。



渡部 祐子 わたべ ゆうこ
生田流箏曲

熊本県出身。6歳より坂田和歌子氏に箏・三絃の手ほどきを受け、後に山川玉枝、声垣美穂の各氏に師事。東京芸術大学邦楽科卒業。東海大学大学院修了。第14回賢順記念全国邦楽コンクールにて賢順賞受賞。伝統楽器の可能性や魅力を伝えるため、ライブや訪問演奏、学校公演を行い、また和楽器オーケストラメンバーとして日本各地で演奏会に出演。2013年度より宮崎県高等学校総合文化祭にて審査員を務める。中学、高校、大学での指導にも力を入れている。宮崎大学教育文化学部非常勤講師。NHK教育テレビ「芸能花舞台」、NHK WORLD「Blends」、日本のテレビ「ネブ&イモの世界番付」などにも出演。



樋口 千清代 ひぐち ちせよ
[代表者] 山田流箏曲

東京都生まれ。高柳順子に山田流箏曲の手ほどきを受け、1998年「千清代」の名を許される。2003年東京芸術大学音楽学部邦楽科を卒業。安宅賞・アカンサス音楽賞並びに同声会新人賞を受賞し新人演奏会に出演。2005年 同大学大学院音楽研究科修士課程修了。国際交流基金の派遣によりウスベキスタンで公演。2009年 同大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。山田流箏曲専攻では初の博士号を取得。在学中は萩岡松韻、増淵任一郎、山脇松韻らに師事。2010年度文化庁新進芸術家育成事業研修員として山田流箏曲を萩岡松韻、河東節三味線を山彦良波の各氏に師事し研修。国内外で演奏活動をする傍ら、小中学校での公演にも力を注いでいる。(公社)日本三曲協会・山田流箏曲協会・箏曲新潮会各会員、邦楽くまもと翔の会・和楽器オーケストラあゐい千代見会所属。読売カルチャー大宮校、豊島区後援子供邦楽合奏団「音輪会」講師。



三橋 乙勢 みつほし おとせ
山田流箏曲

千葉県出身。幼少より祖母の本多波津井より山田流箏曲の手ほどきを受ける。人間国宝山脇松韻に師事。東京芸術大学音楽学部邦楽科を卒業。在学中は増淵任一郎、岸辺美千賀らに師事。2008年・2009年新春歌舞伎公演に出演。俳優座の女優 田野 聖子ひとり芝居「花いちもんめ」、朝正雪路主演「花や蝶や」、代官山コレクションファッションショー音楽出演。Shing02+CRADLE ORCHESTRA CDレコーディング参加。その他、演奏活動、学校教育鑑賞会など多数出演中。(公社)日本三曲協会・山田流箏曲協会・箏曲新潮会各会員、箏曲波津井会副主宰。



森田 博代 もりた ひろより
山田流箏曲

東京都出身。9歳より箏曲を始め、15歳より大同隆之に師事。東京芸術大学大学院修了。在学中は、萩岡松韻、岸辺美千賀、井口法能、宮下秀列、鈴木厚一の各氏に師事。2009年、皇居桃華楽堂にて御前演奏。大学院修了後は、都立高校、島村楽器ミュージックサロン、東京・文化プロジェクト「キッズ伝統芸能体験」などの講師を務め、文化庁主催「文化芸術による子供の育成事業」の巡回公演事業に参加(山梨公演、福島公演、長崎公演)するなど、幅広く演奏活動をしている。(公社)日本三曲協会、山田流箏曲協会、箏曲新潮会、箏楽会、和楽器オーケストラあゐいに所属。

グラントワ・ユース・コール

グラントワ・ユース・コールは、益田市ジュニア合唱団として1997年6月に設立。益田地域の音楽文化の充実を目指し、小学生から高校生約30名で活動している。2010年から島根県芸術文化センター「グラントワ」のフランチャイズ団体として、センターと連携して活動している。2012年、ウィーン少年合唱団益田公演に賛助出演。



【平成28年度邦楽地域活性化事業 総括公演 パンフレットP2】

子どもたちや地域の人々に日本の

今秋、全国で活躍する9名の邦楽演奏家が益田市、浜田市、江津市の小中学校やホールを本日の邦楽ガラコンサートは、本事業を実施した演奏家が一堂に会し

第1部

夏やせ 作曲/山田 檢校
箏/樋口千清代

《夏やせ》は山田流箏曲の流祖である山田檢校の小品です。5分程度の短い曲の中に、眼に重きを置いた山田流のエッセンスが凝縮されています。女性の辛い恋心を歌う内容で、派手な部分はないながらもしっとりとした趣がある曲です。山田流箏曲を初めてお聞き頂く方も多いと思いますので、《竹生島》を聞いて頂く前に、山田流とはどのような音楽なのかまずは小品から触れて頂くかと思いいこの曲を選びました。中盤の「辛気、辛気、辛気エ」という部分では、気持ちを率直に表した歌詞がついていて聞きどころの一つとなっています。山田流箏曲は「唄」「箏」「三味線」三つの要素が織りなす音楽ですが、今日は独奏(箏の弾き唄い)のかたちで、一人の女性の辛い気持ちを表現出来たらと思っています。(樋口千清代)



益田市 鎌手小学校 アウトリーチの様子

竹生島 作曲/千代田檢校
箏/樋口千清代 森田 博代 三絃/三橋 乙勢

この曲は能の《竹生島》に題材を山来しています。醍醐天皇に仕える臣下が竹生島詣をした際に不思議な体験をするストーリーです。臣下は翁に頼んで琵琶湖畔から小舟に乗せてもらい、乗り合わせた若い娘と共に竹生島に向かいます。しかし、女人禁制のはずの竹生島になぜか娘も降り立ってしまいます。実は、翁と娘は板の姿……翁は龍神、娘は弁才天女だったので。アウトリーチでは10分程度に短縮したダイジェストバージョンを取り上げ、「波風しきりに鳴動して、下界の龍神現われいで」の部分(翁が龍神に変身するシーン)では、児童の皆さんも一緒に唄って盛り上げてもらいました。唄の練習は短時間でしたが、とても元気に唄って下さったことが印象深く、貴重な経験をさせて頂きました。本日は全編を演奏致します。臣下と翁のやり取りや、弁才天女と龍神に変身するところに注目してお聞きください。(樋口千清代)



益田市 ワークショップの様子

胡桃の森で 作曲/池上 眞吾
箏/石田真奈美 尺八/田野村 聡

絵本のようなメルヘンチックな世界を音楽で表現した作品。たくさんの木の葉が揺れる秋の森。鳥たちやリスやウサギが楽しげに過ごす森の一日。なかでも人気の胡桃の実にはリスや小鳥がたくさん集まってくる。委嘱者・吉田清一氏が銀婚式に夫人・くるみ氏に贈った作品。1999年10月作曲。CD「秋・冬コレクション 池上眞吾作品集3」(パンプーBCD-062)収録曲。(作曲者)

この曲は、前山の通りメルヘンチックな雰囲気印象的です。なんだか、心がほっこりする…そんな風に感じてもらいたいと思い、選曲いたしました。ぜひ目を閉じ、聴こえてくる音色に耳を傾けて、鳥根の風景や皆さんの身近な情景を思い浮かべながら聴いてみてください。(石田真奈美)



浜田市 第一中学校 アウトリーチの様子

那須与一 詞/「平家物語」より 作曲/橋 旭宗
琵琶/藤高理恵子

源平合戦、屋島の戦い。海上には平家、陸には源氏が陣を構えている。一時休戦しているが、平家軍から小舟が現われ、岸の先に立てた扇を射落してみよと源氏方を挑発してくる。那須与一宗高が勝手に選ばれるが、扇までは距離があるうえ、北風が強く吹いて波も高い。与一が目を閉じ「あの扇を射させたまえ」と神に祈って目を開くと、風が少し弱くなっている。機を逃さず放った鎧矢は見事に扇を射落すとすのだった。大人になってから趣味として習い始めた琵琶。師匠が弾いた那須与一を聴いて衝撃を受け、「私もあんな風に弾けるようにしたい」と思い、プロの演奏家を目指すようになりました。(藤高理恵子)

【平成28年度邦楽地域活性化事業 総括公演 パンフレットP3】

伝統音楽の素晴らしさを伝えたい

訪れ、アウトリーチやワークショップを行い、邦楽の魅力を県下に発信してきました。開催する総括演奏会です。響きあう和の調べをお楽しみください。

仲秋詩抄

作曲/牧野由多可

十七絃/石田真奈美 琵琶/藤高理恵子 尺八/田野村 聡

琵琶という楽器が絃楽器の中でも極めて説得力の強い表現力を持った楽器であることは今さらいうまでもない。この一つの楽器から秋の竹林のしずけさや、藤の葉ずれのかそけきびき、一滴の清水のしたたりから、嵐のような大波に至るまで自由自在に、しかも幅広く表現できる楽器は、そうざらにあるものではない。曲は、秋の清澄、寂寥にはじまり、それがやがて大きな炎の波となって燃え上る薔けの一つときとなり、野が叫び、吹きぬける風…。やがて静寂がしのびより、単純な終結、遠ざかりゆくかきりめきの想い。これは、秋の竹林によせる一篇の幻想曲である。(作曲者)

「七絃、琵琶、尺八それぞれの楽器の魅力が凝縮されている曲です。この作曲者をはじめ、十人十色な「秋」のイメージがあると思いますが、皆さんはこの曲を聴いてどのように感じるでしょうか。(石田真奈美)



浜田市 ワークショップの様子

第2部

琵琶行

白居易ノ興ニ效フ

作曲/伊福部 昭

二十五絃箏/日原 暢子

1991年作曲の二十五絃箏曲。唐の詩人、白居易の長詩「琵琶行」にもとづいています。
—白居易は四十五歳で、都から辺境の地に左遷された。月光が輝くある秋の夜、広々と流れる潯陽江に友と舟を浮かべると、傍らから老女の弾く琵琶の音が聞こえてきた。その有様は、珠玉を無数に大皿に落とすような、鶯の声が滑らかに流れるような、そうかと思えば嚮天(どうてん)するような、夢幻自在なものである。舟に超えて身の上を聞けば、今は粵落(れいらく)しているが、かつては都で名を馳せた美艷の名手だった様子。詩人は、彼女の身の上と楽器の哀しい響きに、都落ちさせられている我が身を重ね、大いに涙する。—はじめ、江上に響いてくる琵琶の哀しい旋律を聴かせ、次に舟を寄せてからの変幻自在な演奏のくだりを経て、最後には冒頭の哀しい旋律による名人芸的な部分に至って、詩人を感じさせ、結びます。(日原 暢子)



江津市 桜江中学校 アウトリーチの様子

さらし幻想曲

作曲/中能島 欣一

箏/日原 暢子 三絃/渡部 祐子 尺八/川村 葵山

1943年4月に作曲された、フルート・箏・三絃による三重奏曲です。第一章は、箏のソロで始まった後、三絃、フルートの順に音を重ね、「ミ・シド・シ」という「さらしの手(旋律)」を様々に変化させつつ織りなしていきます。第二章は、フルートの美しい抒情的な旋律を奏でる穏やかな章です。第三章は、明るい旋律を奏でるフルートに誘われ、三絃が長閑的に際り出ます。第一章を発展させた華やかな章です。「さらし」とは、「布をさらす 作業」のことで、その作業に因んだ邦楽曲は数多くあります。大空の下、ざざめく川水の流れ、そうした自然と共存してきた庶民の労働する姿から感じる、健康的なバイタリティーと、箏曲の伝統の上にありながら、現代邦楽を担った作曲家へ思いを馳せつつ、尊敬の念と情熱を持って演奏したいと思います。尚、本日はフルートパートを尺八で演奏します。三絃パートは、第一章と第三章を山田流の三絃と撥で、第二章を地歌の三絃と撥で演奏します。(日原 暢子)



江津市 ワークショップの様子

出演者全員による合同演奏会

星の美しい村

作詞/鈴木 敏史 作曲/寺嶋 隆也

指揮/広兼 伸俊 箏Ⅰ/樋口千清代 箏Ⅱ/日原 暢子 箏Ⅲ/三橋 乙勢 森田 博代

十七絃/石田真奈美 渡部 祐子 琵琶/藤高理恵子 尺八/川村 葵山 田野村 聡 賛助出演/グラントワ・ユース・コール

グラントワ館前に先立ち開始した「いわみ合唱塾」では、財産となる合唱曲を作ろうということになり、作曲家寺嶋隆也氏に毎年1曲づつ新作を委嘱してもらいました。6年間で6曲、現在カワイ楽譜から出版されています。その1曲目が、「星の美しい村」です。私は、平成21年度の邦楽地域活性化モデル事業総括演奏会での合同演奏にこの曲を推薦し、会議の場でスペイン旅行中だった寺嶋さんに電話をして邦楽への編曲をお願いしました。柔らかな箏のアンサンブルに始まり、尺八演奏を経て女声合唱版による益田市ジュニア合唱団(現グラントワ・ユース・コール)の歌声で締めくくる編曲は、この曲の美しさをさらに際立たせてくれました。今回は琵琶を加えての再編曲とのこと。楽しみです。皆さんも、それぞれの故郷の空に思いを馳せてみませんか。(いわみ芸術劇場初代館長 山崎篤典)

平成28年度邦楽地域活性化事業 実施要綱

1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、地域における芸術活動を担う人材の育成及び環境づくり、並びに日本の伝統音楽（以下「邦楽」という。）の継承発展に寄与し、併せて創造性豊かな地域づくりに資することを目的とし、都道府県等との共催により、公共ホール等を拠点とした、邦楽分野の演奏家（以下「演奏家」という。）による地域交流プログラム及び公演等に関する事業を実施する。

2 対象団体等

(1) 対象団体

対象団体は、都道府県等とする。

都道府県等とは、次の団体をいう。（以下「都道府県等」という。）

- ① 都道府県又は政令指定都市
- ② 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、都道府県又は政令指定都市の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③ 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された、公益財団法人及び一般財団法人（②を除く。）のうち、都道府県又は政令指定都市が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

(2) 地域交流プログラム実施団体

- ① 対象団体が、都道府県及び都道府県に係る指定管理者等（上記（1）の②又は③に該当する団体をいう。以下同じ。）の場合

管内の市町村等より地域交流プログラムを実施する団体（以下「実施団体」という。）を選定する（原則として3団体）。

市町村等とは、次の団体をいう。（以下「市町村等」という。）

ア 市区町村（政令指定都市を除く。）

イ 市区町村に係る指定管理者等

なお、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合等については、地域創造と協議するものとする。

- ② 対象団体が、政令指定都市及び政令指定都市に係る指定管理者等の場合

対象団体又はその近隣の市区町村（それらに係る指定管理者等を含む）が実施するものとする。

なお、近隣の市区町村が実施する場合の、団体の選定については事前に地域創造と協議するものとする。

3 事業内容

(1) 研修プログラム

① 全体研修会

対象団体は、実施団体の職員を対象に、邦楽分野による地域交流プログラム及び公演の企画・制作に必要な実践的ノウハウを取得するための研修会を開催する（原則として1回）。

なお、当該研修会は、文化行政担当者や公共ホール職員、教育関係者等に広く公開する内容を含まむものとし、邦楽事業に関する情報提供の機会とする。

② 手法開発研修会

対象団体は、地域創造と協力して、対象団体及び実施団体の職員並びに演奏家を対象に、地域交流プログラム等に関する手法開発を目的とする研修会を開催する（4日間の連続した日程で1回）。

また、対象団体は、当該研修会において対象団体が選定した学校でアウトリーチ実地研修を実施する。

(2) 地域交流プログラム

実施団体は、原則として3日間の連続した日程で次の地域交流プログラムを実施する。

また、実施団体は、地域交流プログラムの実施に向けて、演奏家、コーディネーター及び対象団体等による、現地における事業打合せを実施する（原則として1回）。

① アウトリーチプログラム

学校等でのミニコンサート等により、地域との交流を図るプログラム（原則として1団体4回）。

② ホールプログラム

公共ホール等において開催するコンサート又はワークショップ等により、地域との交流を図るプログラム（原則として1団体1回）。

なお、ホールプログラムにおいてコンサートを行う場合は有料公演とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

(3) 総括公演プログラム

対象団体は、総括公演（ガラコンサート）を実施する（原則として1回）。

なお、総括公演は有料公演とし、入場料収入は対象団体に帰属するものとする。

4 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。

ただし、下記以外の経費及び対象団体又は実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、対象団体又は実施団体の負担とする。

(1) 演奏家に係る経費

事業参加に係る報酬（出演料、謝金等を含む）、現地移動費を除く旅費（地域創造の規定に基づく、以下同じ）、楽器運搬費、損害保険料、総括公演プログラムの合同練習に係る経費（会場費及び演奏指導を行う作編曲者の旅費等）を負担する。

(2) 対象団体が支出する経費

対象団体が支出する、研修プログラム及び総括公演プログラム実施に係る経費並びに地域交流プログラムの実施に係る経費（ホールプログラムに係るものに限る）のうち、別紙対象経費について、450,000円を限度として負担する。

なお、対象団体による演奏家選定に係る経費については、別途負担する。

(3) 実施団体等が支出する経費

実施団体が支出する地域交流プログラム実施に係る経費のうち、別紙対象経費について、1実施団体につき50,000円を限度として負担する。

なお、対象団体が都道府県及び都道府県に係る指定管理者等で、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合や、政令指定都市及び政令指定都市に係る指定管理者等の場合で、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合については、地域創造と協議するものとする。

5 事業実施に対する支援

(1) チーフコーディネーターの派遣

地域創造は、主に対象団体に対して、演奏家の選定方法、事業計画の立案及び事業の円滑な運営に関する助言等を行うため、地域の芸術活動に詳しい専門家をチーフコーディネーターとして派遣する。

(2) コーディネーターの派遣

地域創造は、主に実施団体に対して、事業担当者のコーディネート能力の向上及び地域交流プログラムのノウハウ蓄積に関する助言を行うとともに、演奏家に対して地域交流プログラム手法について助言を行うため、企画制作の経験が豊富な専門家をコーディネーターとして派遣する。

(3) アドバイザーの派遣

地域創造は、必要に応じて、対象団体の制作責任者（ディレクター）、チーフコーディネーター、コーディネーター及び演奏家に対し、企画内容についてより専門的な助言及び情報提供を行うため、企画内容に応じた専門家等をアドバイザーとして派遣する。

(4) 講師等の派遣

地域創造は、必要に応じて、研修プログラム実施時に講師等を派遣する。

6 提出書類等

(1) 事業申込書（別記様式1-1～1-3）

平成28年度に本事業の実施を希望する都道府県等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、平成27年10月16日（金）までに提出すること。

なお、2(1)②及び③に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること。

(2) 実施計画書、事業収支予算内訳（別記様式2-1～2-4）

本事業の実施を希望する都道府県等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、事業内容決定後すみやかに提出すること。

地域創造は、提出書類の内容を審査したうえで共催の可否を決定し、申請者に通知するものとする。

(3) 実績報告書、事業収支実績内訳、負担金請求書（別記様式3-1～3-5、4-1～4-2）

事業終了後30日以内に、別途指示する関係書類を添えて提出すること。

なお、別記様式3-2及び3-3については、公開されることを前提として、プログラムのテーマ、開発された手法など具体的にその成果を記入すること。

(4) 変更承認申請書（別記様式5-1～5-2）

共催決定通知を受けた後に申込み（申請）内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに変更承認申請書を提出すること。

なお、変更の内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

7 その他

(1) 演奏家の決定

対象団体は、地域創造が選定した候補演奏家から事業に参加する演奏家を決定する（原則として3組、各3名まで）。

(2) 共催の表示

対象団体及び実施団体は、事業実施会場及び事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。

【表示例】 共催：一般財団法人地域創造、共催：（一財）地域創造

(3) 損害賠償の免責

事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

(4) 関係書類の提出

地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、対象団体の決定又は負担金の支払い等の審査並びに事業報告書の作成に当たって、必要な書類の提出を求めることができる。

(5) その他

事務手続き及びスケジュール等について必要がある場合は別途定める。

また、事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と対象団体が協議して決定する。

別紙

「4 経費負担」 対象経費一覧

(2) 対象団体が支出する経費の対象経費（研修プログラム及び総括公演プログラム負担金）

項目	内 容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、楽器運搬費、会場整理等人件費、会場借上料など
旅費・諸謝金	地域交流プログラム関連旅費、事業打合せ等旅費
印刷製本費	チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費
消耗品費	事業に係る消耗品費
その他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

(3) 実施団体等が支出する経費の対象経費（地域交流プログラム負担金）

項目	内 容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、楽器運搬費、会場整理等人件費、会場借上料など
旅費交通費	事業打合せ旅費
印刷製本費	チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費
消耗品費	地域交流プログラムに係る消耗品費
その他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

平成28年度 邦楽地域活性化事業 報告書

発行：一般財団法人地域創造

〒107-0052

東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階

TEL. 03-5573-4143

FAX. 03-5573-4070

URL. <http://www.jafra.or.jp/>

発行日：平成29年3月

